国際協力事業団
18487

JICA LIBRARY
1070938[4]
18487

ま　え　が　き

国際協力事業団では、既移住者に対する教育対策の一環として、主に戦後移住者及びその子弟を中心に日本語教育に対する援助（教師謝金の補助、教具教材等の整備、日本からの指導教師の派遣等）を行ってきております。

移住者子弟に対する日本語教育のあり方、あるいは施策上の問題点等は今後共十分議論を尽す必要がありますが、優れた教師の育成が日本語教育の推進上必要欠くべからざることは論をまちません。

しかしながら、現地日本語学校での教師の置かれた研修環境は恵まれたものとは言えないのが現状であります。

そこで、これら教師を本邦に招き、外国語としての日本語教授法、その他の知識を習得せしめるとともに、国内研修旅行等を通じ、日本の歴史、社会、現状等についての認識を深めさせることにより、教師としての資質の向上の一助にしたいというのが、この研修の趣旨であります。

この昭和54年度より開始した現地日本語教師本邦研修（３ヶ月コース）は今回で９回目を、また昭和59年度から開始された６ヶ月コース（60年度から１年コースとなる）は今回で４回目を迎えました。

本誌には第９回日本語教師本邦研修３ヶ月コース20名、並びに第４回１年コース12名の総括報告と、研修日誌等が集録されております。

最後に、本研修の趣旨に対しご理解と、研修生へのあたたかいご指導を賜わった玉川大学の諸先生方をはじめ、本研修にご協力いただきました関係機関の諸先生、関係者の皆様に感謝の意を表する次第であります。

1988年８月

国 際 協 力 事 業 団

移 住 事 業 部 長

目　次

まえがき

研修内容

研修総括報告書＜3ケ月コース＞……1

地域	氏名	頁
ベレーン	丸岡邦子	1
〃	桜井二二子	2
ブラジル	三分一貴美子	3
リオ・デ・ジャネイロ	遠富澄江	4
〃	川辺重信	6
〃	菅原智恵子	8
サン・パウロ	高田照子	9
〃	長谷川多喜子	12
〃	宮崎勝代	13
〃	五木田洋子	14
〃	野口民恵	16
〃	川崎晴美	17
アルゼンティン	佐藤隆	19
〃	大城和子	19
パラグアイ	横畠愛子	21
〃	丸山みどり	22
ペルー	福島ローサ	23
ボリヴィア	高野知恵子	24
カナダ	間庭文子	25

研修総括報告書＜1年コース＞……27

地域	氏名	頁
ドミニカ共和国	竹中章子	27
ペルー	長谷川薫	29
パラグァイ	遠藤ルリ	29
アルゼンティン	白水グローリア	31
ブラジル	三分一直美ルイザ	33
リオ	藤本清美	34
ベレーン	北川クリスチーナ小百合	36
サン・パウロ	小坪美代子	38
〃	田中マリ	40
〃	安江・エウニッセ・洋子	41
〃	上田・弥生・ロザーネ	42
レシフェ	竹村・エレナ・和	43

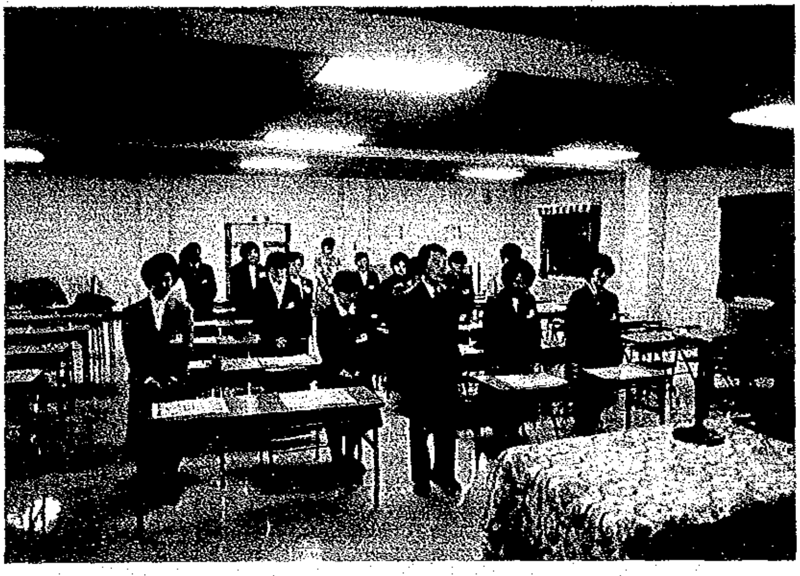
研修日誌……45

研修内容……221

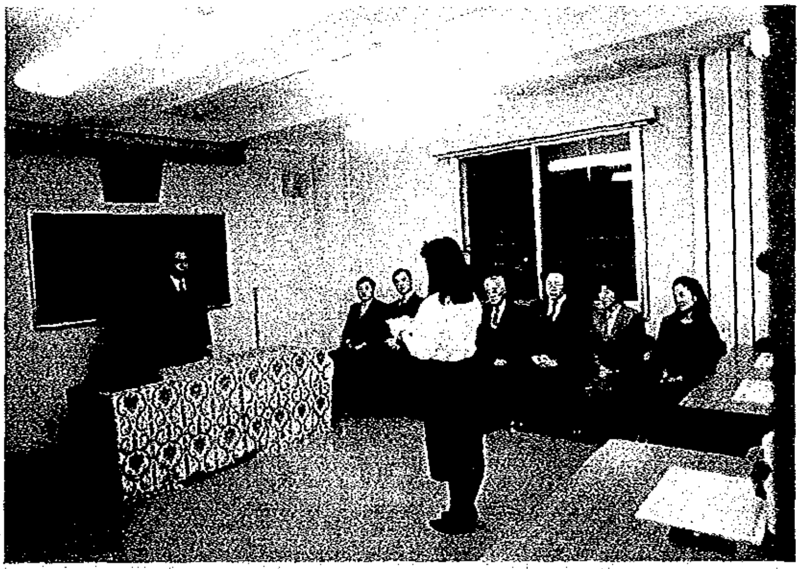
第9回現地日本語教師本邦研修日程表……222

昭和62年度研修生名簿……235

研修生一覧表

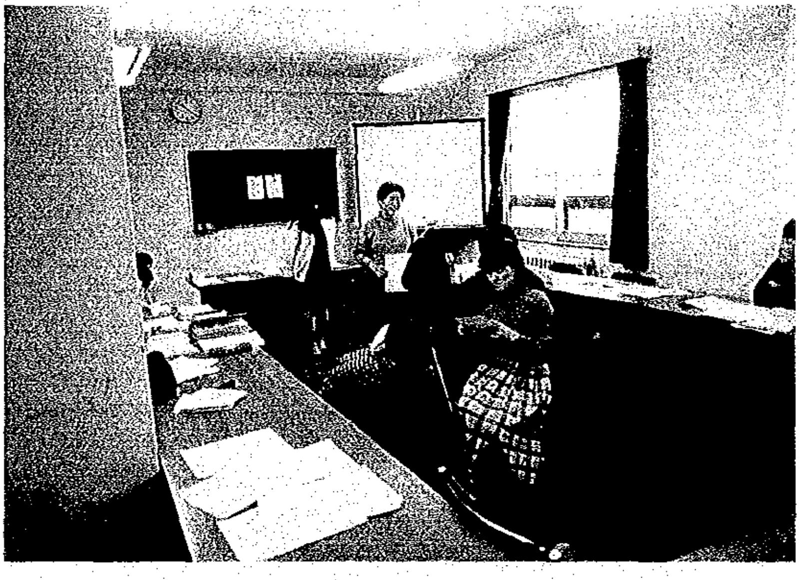


Ａコース修了式



修了式で謝辞を延べる泉グローリアさん

Bコース　学校劇　夏期大学
三分一さん・長谷川さん（中央２人）



Bコース　研究課題発表会
ドミニカ　竹中章子さん

Aコース　研修総括報告会

Bコース　講師の先生方

A・Bコース　日本文化研究
京都にて

Aコース　鎌倉見学

Aコース研修総括報告書

期間：1986年9月25日～同年12月22日（3ヶ月コース）

ブラジル国パラー州
コケイロ日本語学校
丸 岡 邦 子

1．当初、研修に期待したこと

学習指導上生徒の能力差についての教授法

外国語としての日本語教授法

カリキュラムの組み方について（外国語としての）

格助詞の使い分けについて

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川大学及びセンターでの研修に於いて目新しい教授法又、忘れかけていた基礎的な事を再度考え直し、可能な限り実践して行きたいと思う。

又、海外での日本語教育は増々盛んになり次代を担う二世、三世教師を育てる事が我々の使命であり、それには自分自身が常に教育について専門的な知識、指導力を身につけ努力すると共に社会人としての資質向上に心掛ける事が父母、地域、社会に応えるべき道であると思う。

日本語を学ぶ事により日本の文化伝承に役立ち表現教育など数多く取り入れていきたいと思う。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1） この制度により教師としての再認識又教育の理念や人間成長発達についての深い理解、及び専門的知識を養う上で非常に大きな役割を果しているので今後もぜひ続けて頂きたいと思う。

2） 非常に良くプログラムが組まれていた。ただ週1回センターでの研修を2回にして頂き教授法にもう少し時間をとった方が良い。

3） 日本語を外国語として教える為新宿日本人学校を1回だけではなく、数多く取り入れてほしい。

4） 実習科程をA、Bコース一緒で良いが講義は分けた方が良い。

4．所　　感

センターでの快適な生活と共に、先生方各々が常日頃思い悩んでいる意見の交換又、各地域での日本語の有り方などについて色々聞かせて頂き、学問の上ばかりではなく、人生上多方面に渡り学ばせて頂き、私の一生の中で大きな収穫の時期となった。又、玉川学園に於いては非常に立派で、学園全体の雰囲気が良く、上品でしかも行き届いた配慮がなされ、その背景には、全人教育の教えが生き続けている証であると敬服した。

講義内容も良く、特に紙芝、表現教育、幼児教育など真新しいものがあり、現地へ持って帰って

もすぐ使えるものであった。

ただ、教授法、基礎文法、アクセント指導などは、もう少し時間をかけていく必要があると思った。

日本伝統の代表である茶道、華道、書道など回数は少なかったが非常に楽しく勉強になった。

出身地研修では玉川には無い別の利点が有り、非常に参考になりこのような教訓を頂いて来た。

「凡庸なる教師はよくしゃべる。よい教師は説明する。すぐれた教師は示す。偉大なる教師は心に火をつける。」

私達教師はただ知識を教えるのではなく子供の心に火をつけ燃えさせるような情熱が必要である。

本邦研修で学び得た素晴らしい体験をブラジルに持って帰り後継者育成の上に力を注ぎたいと思っております。有難うございました。

ブラジル国パラー州

カスタニヤール日本語学校

桜　井　ニ二子

1．当初、研修に期待したこと

1．複式授業の進め方

2．教材研究

3．会話指導

4．作文指導

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

自分自身が生徒にとって一番身近で活きた教材です。教師としての姿勢を教えていただきました。

- 学んだことを基として教材研究と共に自分の身近にある材料から教材作りをしたいと考えています。
- 資質向上に心がけ、努力していきたいと考えています。
- 生徒にとって良い隣人となりたいです。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 新宿日本語学校での講習をセンターで週１回受講できるようにして下さい。
- 二世教師研修についてですが、高校卒業者で現地日本語学校経験年数５年以上であれば研修対象者としていただきたいと思います。

4．所　感

まず思いますことは、万事整えられた中でたくさんのことを勉強させていただき、又、見学させていただき感謝の心でいっぱいです。

なれない日本での生活でセンターの職員さん達や、玉川大学での先生方が本当に気持ちよく、一人一人にあたって下さったことを嬉しく思いました。

これから現地に帰り、3ヶ月間学んだことをどのように生かすかが今後の課題です。怠け者にならないで自分自身が勉強し、授業に生かしていきたいと考えています。

ブラジル国ブラジリア
ダグアチンガ日本語学校
三分一　貴美子

1．当初、研修に期待したこと

・教師の資質向上

・教育原理（理念）習得

・複式授業の改善及び効率化方法

・初級指導目標の確立

・学校内行事の立案

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・日本語学校生徒に日本の文化・心を伝えたい。

・日本語を学ぶ事によって日本の良さがわかるよう地域社会を啓蒙する。

・日伯親善を担う若き子弟に対し、よりよき日系人となるよう日本語学習を通して育成に努力する。

・幼児教育の大切さを玉川大学で学び、楽しく学ばせる方法を生かしてみたい。

・日語教師養成に全力投球する覚悟です。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・研修期間は9月上旬～11月末までが良いと思います。

・A、B両コース共にの学習は無理のような感じがします。

・基礎的な教科は時間をかけて学ぶ方が後々のためになると思います。

・出身地研修は今後も続けて頂きたいと思います。（得るものは大だから）

・1年コースの大学卒資格を年令的にも合せ制限をし（21才以上）高校、師範卒でも、その年令まで助手経験がある者であれば有資格者として認めてほしいと思います。（勿論研修に必要な学力

を有する者）

4．所　感

・玉川大学について

内容豊富な講義で基礎的学問が身についたようです。気候的にも一番良い時に恵まれ、日本の自然を満喫できたことは最高でした。

・所外研修について

伝統文化の再確認については今回のスケジュールはとても良かったと思います。京都、奈良は特に印象に残りました。

・出身地研修について

35年ぶりに母校を訪れ、日本の学校教育の基本をつぶさに見る事が出来ました。教師像はさまざまでしたが５、６年生の担任であった恩師にめぐり会えた事は一生の思い出となりました。音楽の教材を取り揃えて下さり感謝感激。

・20名の研修生の中で一番経験年数の浅い私でしたが、皆さんと一緒に３ヶ月共に学び過ごせた事は嬉しい限りです。

各国の情報交換はもとより、人と人とのふれあいの中から、改めて「日本の心」を見つめなおした次第です。

これを機に現地での地固めをし、理想の教師像を目ざし、着実に歩みを進めたく思っています。

終りにこうした研修制度にたずさわった方々に対し心から厚くお礼を申し上げます。

ブラジル国ミナス・ジェライス州
ミナス日伯文化協会教育部日本学校
遠　富　澄　江

1．当初、研修に期待したこと

・学年別学習指導の一つとして年代別児童心理学

・複式授業の進め方

・作文指導の要点

・教師としての基本的な心構えについて

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・教える者の基本的心構えを学びました。このことをいつも原点として子供達に接したいと思います。

・日系人子弟で少しでも日本語を学びたいと思っている子供に実力をつけさせたいと思います。
・今までの経験と今回研修したことを自分の中で熟慮して、地域社会に貢献したいと思っております。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・現地に住んでいると、本等で日本の知識情報を得ることができますが、実際に日本を見、体験して、本当の認識を持つことができました。ぜひこの意義ある制度を続けて頂きたいと思いました。
・要　望

1．各教師は現地で経験がありますので、研究したい課題を持って来ております。それぞれ各人が異なるものですので選択科目制度を取り入れて頂きたいと思います。

2．講義期間の2/3の時期に出身地研修が入り、16日間の空白ができました。各講義の盛り上った時点でしたので教える側、受講側、双方に授業の流れの力が削がれたようでしたのでご検討をお願いします。

3．短期間での研修なので調べ物をすることが多く、部屋割の4人はとても大変でした。ぜひ考慮下さい。

4．所　　感

今回の本邦研修に参加できたことを、とてもありがたく思いました。日本語を教える教師ですが、生徒からいろいろな問題を提出される事があります。現地社会の風俗習慣と私の育った風俗習慣との違いが多くあり、一時父兄も、私自身も動揺するときがありました。それを経て、自分なりの教師感を持つようになりましたが、今回の研修先の玉川大学で「知識を教えるばかりではなく、バランスの取れた人格を育てることが第一であり、その上で個性と云うことばも生きてくる」ことを学びました。又、「だれもが持っている人間らしい感性を育てる」こと、そして、教師は、「水車の如し」あること。各先生方の講義を受けて、得心することが数多くありました。

センターの講義では、日本の現状と将来の見通し等をいろいろな分野について学びました。現地ブラジルにおいて問われたときに貴重な資料とすることができますし、私自身の日本の知識とすることもできました。又、日本語の語学を独学で学んでおりますと、専門的なことを調べ、捜し出す方法がよくわかりませんでしたが、概要と研究する方法の指導を受けることができました。短かい期間での研修ですので購入したい本が沢山ありましたが、高価でしたので三分の一ぐらいしか本を持って帰ることができませんでした。

国際協力事業団本部並びに海外移住センターの皆様のご厚意と励ましにより、玉川大学及びセンターでの価値ある3ヶ月の研修を終えることができました。誠にありがとうございました。

ブラジル国ミナス・ジェライス州
ピラポーラ日本語学校
川 辺 重 信

1．当初、研修に期待したこと

(1) 日本語のルート、根本を学びたい。

(2) 日本の古の物に触れ多くの知識を広め、日本を最確認したい。

(3) 複式授業に使える教材を集め、その教育法を学びたい。

(4) 複式授業に使える視聴覚機器を調べたい。

(5) その他の教材集め

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川学園の全人教育の精神（真、膳、美、聖、健、富）を汲み取り、個人の成長を計る。

(1) 表現教育を通し、自然に学び個性を伸ばす。

(2) 3歳までの幼児期で、その子の一生が決まると言われる。感性の最も敏感な時期を大事にし、教師自身が気をつけていかなければならない。一言の言葉がその子を動かす。

(3) 折り紙、紙座を通して、創意、工夫を学ばせたい。

(4) 労作によって協同、楽しみを教え、社会の一員で有る自信を持たせたい。

(5) 複式授業を今少し改良し、目標をはっきり定め、それに向かってはっきりしたカリキュラムを作制していきたい。

(6) 日本語の言葉一語一語を説明して、日本語の意味の深さを教え、ただ単に外国語として学ぶのではなく、一文化を学ばせていきたい。そのためにはポルトガル語での言葉の意味などを訳していったらよいのではないかと思いました。

(7) 日本神話などをもっと聞かせてあげたい。又俳句、短歌、を子供たちに教えていこうと思います。

(8) 習字、花、茶、全て日本の礼儀作法の基礎であり、心の道でもある。最低限の知識を教えていきたい。

(9) ワープロ、パソコン、の入門知識を現代子として知っておくべきなので、教えていきたい。

(10) 少しづつ視聴覚機器も使用し、楽しい学習にしたい。それがひいては父兄への啓蒙となると思う。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) 最も強く感じたことは、時間がなかったこと。

イ．玉川学園に通う電車乗車時間に1日3時間は取られる。その時間がたいへんおしい。玉川学

園での勉強は週2度～3度でよいと思う。

ロ、教材収集は私どもの最大の目的です。その買物、物色日を2，3日欲しい。

ハ、研修期間中一つの課題を取り上げて研修生で研究しあい、何かを作り上げたい。

（文法の使用表、言葉の意味カード、漢字の生い立ちカード、カリキュラム、<単式、複式、幼児、小学年、中学年、高学年>紙芝居、指人形、スライド、ビデオ研究、会話集、他…）

(2) センターでの課目を増やして欲しい。通学の無駄な時間を無くすためにもよいと思います。

イ、音楽、合唱、エレクトンの弾き方。

ロ、電気科学工学の発展時代です。ワープロ、パソコン、最新工学の最低知識。

ハ、見学研修は今年も大変良かった。このままひき続き行ってもらいたい。欲を言えば最近大変多くなった外国人の為の日本語塾の参観を今少し増して欲しいと思いました。

ニ、茶道、華道、書道はこれからも続けられんことを望みたい。なお茶道の場合釜が一つしか無かったので、順番が回らず今回1回しか立てることが出来なかった。釜を今五つほど増し、いつでもできるように用意したいものである。

ホ、センターでは研修生並びに移住者が一度に入所するときは70数名が入るときがある。そのため僅か3台のビデオテレビも使用不可能となり、いろいろな資料作りもできなくなる。南米各地では複式授業が多く視聴覚の利用が大変望まれております。少しでも資料を持帰りたいのでビデオテレビは必要と思います。最低5台は設備していつでも使えるようにしたい。又パソコン、ワープロなども同じ。

4．所　感

訪日の1ヶ月前に決まった私の研修、あたふたと心の定まらぬまま日本にやってきました。当時は25年振りに見る日本の変わりように驚き、今後の研修に対して一抹の不安をもちながらスタートしました。

来た当初は複式授業に使える教授法や、視聴覚機器をどうにかして捜して行こうと躍起になっておりました。しかし玉川学園での全人教育を学ぶにつれ、私の人生観が多少変わってきたようにも感じられた。始めは満たされない気持ちが募り、いよいよ落ち着かない態度となっていたのでしょう。

教師としての態度、姿勢、子供たちへの思いやり、子供の身になってみろと言われ、子供と一緒に遊ぶ楽しさなど学んでいくうちに、見栄や我をはることの惨めさがまざまざと反省され、恥かしくもなった。教師として最も大切な、子供に帰れ、自然に戻れと叫んでくれた玉川の先生方に心から感謝申し上げたい。

初秋まだ夏の名残の暑さの中、青々とした緑の森、玉川学園に入園し、次第次第に色濃く紅葉する木々を眺め、真っ赤に熟れる柿に喜々として通った玉川、その木々も落葉し冬となった。今年は

40年ぶりの12月の積雪とか、私どもを歓迎してくださったかの如く、晩夏から秋を通して冬を見せてくださった。たった3ヶ月であったが、日一日と自然が変わりまさに一巻のフィルムを見ているかの如く感じた。本当に恵まれた時期にきたものだと私どもは叫び合って喜び合いました。本当に少ない時間、まだまだ見足りない、聞き足りないと思うことが沢山ありましたが、これをきっかけに多方面に学び、今後増す増す勉学に励んで参りたいと思っております。ブラジルはこれからが大変な教師の苦労期間となって参ります。家庭より日本語が消えつつ有るので自然形式が外国語教育化して参ります。しかし、それでは真の日本語の伝達は成されません。ただの言葉の伝達にすぎません。そこでやはり教師自身の勉強が必要となってまいります。常に日本の風俗に接し、話し、聞き、真の日本を知っていかなければなりません。その勉強期間がこの研修であろうと思われます。私は現在ブラジルで叫ばれている、外国語教育というものに非常に疑問を感じているのです。真の日本語は日本の文化なのであって言葉のみのものではありません。日本の良さ、その良さを含んだ文化を世界に広めることが何故いけないのであろうか。良いものは良いとして堂々と世界に訴えていいと思います。外国に於て言語だけの教授ならいらないと思います。なぜなら外国には立派な母国語があるからです。そしてその外国の言葉にはない良さを教えていくのが、私達の役目なのであります。ですから教えるにしても大変責任があると思います。私どもは日本を代表し、世界に紹介しているのです。それを言語のみで片付けて深い意味を教えないのでは、片手落ちの教授と言わなければ成りません。

今回の研修で25年間のブランクを10年間くらいは縮め、これから帰ってなお一層頑張って参りたいと思います。

ブラジル国ペルナンブコ州
レシフェ日本語
菅　原　智恵子

1、当初、研修に期待したこと

二世である私は、日本での教育を受けていませんので、日本における教育の実体を体験し、教育方法を学び（特に低学年に対する）、現在自分の受け持っている子供達に、外国語としての日本語をどのようにしたら楽しく自然に覚えさせることが出来るのか、歌を歌ったり、ビデオテープにより目と耳から覚えさせ、その後子供自身が会話をしてくれるような方法等を、私のような経験の浅い者でも、子供達が遊びながら学ぶ事の出来る指導方を研修出来ればと勝手な期待をもっていました。

2、今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

第一に、帰国後レシフェ日本語学校の先生方に受講内容を報告し、又、自分が1年間にどこまでどのくらい教えるか、他の先生とも良く話し合って、やって見たいと考えております。

第二に、私自身が受け持っている子供達に対し、色々と実践してみて役立てたいと思います。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

出身地研修について、私のようにブラジル生まれの者には出身地研修先がなく、川端課長様はじめスタッフの皆様にご面倒をおかけして、やっとのことで玉川学園の幼稚部で研修が出来たわけです。この研修は、日本に出身地のある方達のために作られているものと思いますが、二世などで、出身地のない者のための研修先も考えておいて頂きたく存じます。どうも授業の邪魔になるとの事で、どこの学校も受け入れが困難のようですので、受け入れ可能の学校を作っておいて頂ければと存じます。

4．所　感

一度は日本に来て見たかった夢がこのような形で実現し、それも短期間の間、有効に多くの事を体験させて頂き、感謝致しております。あまりにも生活環境が変り、対応がうまく出来ず、気持ちはあせるばかりで実際に行えなかった事も沢山ありますが、これは3ヶ月と云う短期間の事によるものであり、仕方がないと思っております。

日本語指導について経験も浅く、今回の研修で受けました事を基本にして、これからどうしたらより多くの日系ブラジル人に教えていくかを考えて、この研修の成果が有意義なものとなるように努力したいと思っております。

最後に、3ヶ月間、国際協力事業団の皆様をはじめ、講師の皆様からお世話頂きました事に対して深く感謝致します。

ブラジル国リオ・グランデ・ド・スール州
ゴヤニア日本語学校
高　田　照　子

1．当初、研修に期待したこと

1）学科面に対して

・基礎文法について、どのような方法で教えて行くか
・具体的作文指導法について、子供達が積極的に作文を書くようになる為には、どうしたら良いか
・子供達が楽しく日本語を学習する為にはどうしたら良いか

・重複式の授業をどの様な方法でやるか

2） 文化・情操面に対して

・日本古来の文化面について、どんな事でも学びたい。（特に民謡、太鼓の基本的叩き方）

・情操教育に必要な新しい、内容と教材

・児童及び、青少年の演劇について教材と指導法

以上について学び、自分の手中に収めたいと願っていました。

2、今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川学園、そして移住センターで学んだ事、また学外で研修した事などを基として、ブラジルに於ける日本語教育を学習面、文化面、情操教育面と系統立てて整理し、考え直し、これから更に研究すべき事はすべき事として、南伯に於ける日本語の先生方と共に研究し、わかち合い、深めながら、子供達により豊富な内容ある日本語教育ができるように努めたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

(1) プログラムの内容について

かなり検討されたプログラムだったと思いますが、来年度には新宿日本語学校への研修（あるいは、どなたか先生に来て頂く）を週に1度くらいの割で入れた方が良いのではないかと思いました。むずかしい理論を聞くより、直接そのまますぐに、役に立つ事が多いと思います。

(2) センター内での生活について

・個室では鏡が少なくとも1個あった方が良いと思いました。洗面所が満員となって困りました。（化粧をする人、ドライヤーで髪をかわかす人、洗面する人等）

・日中明るい時に、廊下や食堂に明々と電燈がついているのがとても気になり、時々消して廻った事があります。

4．所　　感

3ヶ月と云えば長くもあり、又短かいようでもありました。複雑な所です。と云いますのは、勉学にはきりがないからなのではないでしょうか。反面、現地に残して来た諸々の事が気になるからです。そんな中で、センターのスタッフの皆さん、玉川学園の諸先生方の細かい御配慮を頂きながら、このような研修会に参加できました事を心から感謝致しております。私の為にではなく、現在教えている子供達、あるいは、これから私が接するであろう子供達の為になる事は、どんな事でも吸収して行きたいと思い、一生懸命勉強をさせて頂きました。（と申し上げても授業中睡魔におそわれた時もありました。）

◎情操教育面に関しては、かなりの収穫がありました。折り紙では、既成のものより、自分で開発

して行く事への道しるべを、紙座では何の変てつもない折り紙から美事な美術品が生れて来ることを知りました。そして表現教育（方先生の）は感性豊かな人格を作る為に非常に良いものだと思いました。朗読劇はさっそく利用したいものです。幼児の為にクリエイティブ・パペトリーのヒントを幼稚園の本多先生から頂きました。この先生からもう少し腹話術の指導をやって頂けたら良かったと心残りです。又、小学部での長嶋、小宮路の両先生から音楽の楽しさを、特に小宮路先生からは、教師としてのあり方、態度、子供への接し方を具体的に教えて頂き、先生御自身その模範を示していられたと思いました。

◎学科面では、少々手きびしいまでの指導を見せながら、実はとても優しく、具体的に指導して下さった長野先生の日本語教授法とカリキュラムの立て方は、大なり、小なり、私達に良いヒントを与えて下さったと思います。何しろ現場で働くのは私達なのですから、最後は私達個人の問題となってくるものです。それに対しての良いヒントだったと思います。石橋先生の教育原理も、力強い歯切れのある話し方で、その原理に思わず引き込まれてしまいました。全人教育論についての説明は、心の底にひびきわたりました。その他、小学部、中学部の授業見学も、先生方がどのような工夫をもって子供達の勉強を助けているか見る事が出来、参考になりました。

◎センターでの日本語教授法（斎藤先生）は音声、発音から入り、かなり高度な専門分野にふれていましたが、現在の私達の能力的観点から、もう一段落した基礎文法を深めて頂いた方が良かったのではと思えます。とは云え、発音についてはとても良かったと思います。日本事情は、先生の個人的観点を入れながら、日本の近代の歴史にふれつつ、日本の現況について楽しく聞かせて頂きました。体育の時間は、レクリエーションに必要なゲーム、フォークダンス等を教えてもらえたらもっと良かったと思っています。

◎学外見学について　新宿日本語学校へは、毎週行きたいと思いました。非常に役に立ちます。東京はとバス、京都、奈良見学、郷里実習、早稲田大学見学、歌舞伎座見学、東芝科学館見学は、それぞれ意義があったと思います。玉川学園での体育祭、コスモス祭も見捨てがたいものであったのは当然です。

センターのスタッフの方々、玉川学園の先生方、各々苦心をし、様々な工夫をして下さったと、改めて感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

茶道、華道、書道があった事、とても良かったと思います。

ブラジル国パラナ州
ゴヤニア日本語学園
長谷川　多喜子

1、当初、研修に期待したこと

日本人の心である日本語を理解しない子供達に、複式授業の中で如何に日常会話を習得させ、日本の文化、習慣、歴史等を伝えていくかと云う観点に立ち、私自身の資質向上を目指し研修に参りました。

特に、児童劇、舞踊劇、文法を習得したいと希望して来ました。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川学園の全人教育を軸とした教育から学んだ教師の在り方、教授法、さらに郷里研修で得たものを、複式授業で実際に取り入れ、より良い日系人を育てる手助けをし、日本語教師後継者養成に努めたいと思います。又、現地大学に在る日語講座で、第二次大戦中就学出来ず、現在再び勉学を希望する成人に、ボランティアとしてお役に立ちたいと思っております。

御教示頂いた事を生かし、今後の日語教育普及の為、精進いたす所存です。

3、今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

幅広い年令差の生徒間で、全校で出来るマスゲーム、レクリエーション、フォークダンス等の指導を、流行のリズムを取り入れ、教えて頂ければと思いました。又、文法は初歩的なものから、時間をゆっくり取って頂ければ良いのではないでしょうか。

4．所　感

事業団、移住センター、玉川学園には、この3ヶ月間大変おせわになりました。選考時の希望は児童劇、舞踊劇を学び、初歩文法も含めた私自身の資質向上を目指して研修に参りました。

文法は日本語教授法の時間帯の中にありましたが、週1回では時間が少なく、足を踏み入れたばかりで、終わったと云う感があり、斎藤先生の授業では、当然教師として知っていなければならないものばかりでしたが、もう少し時間をかけ、初歩から取り組んで貰えばとも思いました。

児童劇は、表現教育、朗読劇、玉川学園演劇部の練習、舞台稽古、本舞台、高井戸児童館での劇あそびフェスティバル、荒馬座の民族劇と、いろんな場でそう云った機会に巡り合い、帰国後の児童劇の糸口を掴む事が出来、この面では大成功だったと云えます。
舞踊劇の方は、団体の生活の中では各人の意見など通る筈も無いが、今回教材さえ手に入れずに帰国することになってしまった。玉川ではユニークな全人教育の旗標のもとに、長野先生、石橋先生、

上原先生、小宮路先生等、教師として、又一人の人間として、当然あるべき心の持ち方を徹底的に教えて頂き、あらためて自分をかえりみる機会を与えられた。生徒達への指導の中で、現在の世の中にこそ、全人教育を持って挑まねばならないと提言も与えられた。将来を担っている子供達や若者にも、我々教師はそう云った責任を持ち、個性尊重と、自学自律の教育の中で、個人差に応じた指導をしなければならないと切に感じた。

長期間祖国を離れていた者にとって、郷里研修、見学、研究旅行等は、長い歴史の中にある日本と、現在の日本を識る意味で、大変有意義なものだった。私の場合約30年振りの帰国で、日語教育者としての自分のおそまつさを痛感する旅にもなったが、30年の年月は、社会生活の推移にともない言語も変わり、電車の中で耳にする会話、訪ねてくる友人の言葉一つにも、飛躍した世界の中の日本を感じた。

現在の言葉を心でとらえ、ブラジルのコロニアの中にどっぷりつかって、世間を知らなかった自分の生活に思いをはせる時、もどかしさと、いらだたしさを感じる。玉川やセンターで学んだ事を起点として、現地の教育へと弛まぬ努力を続ける所在である。

ブラジル国サン・パウロ州
コクエーラ日語講座
宮　崎　勝　代

1．当初、研修に期待したこと

○今までの国語教育ではなく、外国語としての日本語教育の新指導法、並びに私自身の基礎をしっかりと学ぶ。

○生徒全員が楽しく学べる様に情操教育、特に音楽レクリエーション指導に力を入れる。

○少しでも単式授業へ変えてゆきたいので、その授業形態を把握したいと思いました。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

この３ヶ月の研修で学んだ事を、同地区に住む同じ悩みを持つ仲間にできる限り伝え、サンパウロにある日語普及センターと連絡を取り合い、これからの日語教育の諸問題にぶつかってゆきたいと思います。

又、二、三世の後継者を育て、日本人だけではなく現地の人達にも日本の国をわかってもらい、日本人の心、そして文化を伝えてゆかなければと強く心に決めました。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

○引き受け先の玉川学園もとても良かったのですが、全人教育だけではなく、一般的な教育で今回

センターで受けた授業内容の方が良いと思います。

○研修生を選ぶのにもっと事業団側で慎重にしていただければと思いました。研修生の中に、「たのまれたから来た」と言う人がおりびっくりしました。

4．所　感

3ヶ月の研修が終った今、いろいろな事がみな、なつかしく思い出されます。

日本に着いた時のみんなの緊張した顔、真心でお世話して下さったセンターのみな様、フウフウ言いながら登ったあの玉川の道、そして先生方、なごりがつきません。私にとって今回の研修は、得る事ばかりで研修目的も私なりに解決がつきました。

たった3ヶ月間で玉川での全人教育のすばらしさを学ばせていただき、文化研修、郷里研修、センター内での勉強と研修の深さにおどろくばかりです。

高度成長をした日本をこの目で確かめる事ができ、日本の心、そして文化を肌で感じ、わが母国日本の持つ本当の姿をブラジルに帰り伝えてゆかなければと痛感しております。

今まで味わった事のない団体生活も体験でき、これからの人生に役立ててゆきたいと思います。

本当に事業団のみな様、玉川の先生方お世話になりました。感謝で胸がいっぱいです。

ブラジル国サン・パウロ州
アルジェ日本学校
五木田　洋　子

1．当初、研修に期待したこと

自己の日本語能力、教授法の向上

サンパウロ養成講座で学んだ事をさらに自身のものにする事

日本の文化、日本人の心、日本の現情、季節感などと直に接し、肌に感じる事

10歳の頃の日本での生活感覚を確認する事などでした。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

まずはじめに、自分に自信を持つ事。そしていつも前進する事。

ブラジルへ帰り、前向きの姿勢で子供達に教える事。玉川で学んだ全人教育、「知」だけを発達させるのではなく、知識、心、体、とをきたえ、優しい、人を思いやる心を芽ばえさせながら、私が教えこむのではなく、子供達自身が学ぼうとする力を養いたい。

それには、言葉だけをつめこむのではなく、習った、指あそび、音楽、折紙、紙座、表現教育なども取り入れ、又、私が経験したすばらしい日本を子供達に話し伝え、おじいさん、おばあさん、

お父さん、お母さんの国を尊敬し、そして、自分達はそのすばらしい日本人の血を受けついでいるという事を知らすような教育方法を取って行きたいと思っております。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・期間：9月25日〜12月22日、最高に良い時期でした。すずしく、勉強が良くできました。おまけに今年は雪まで降ってくれてほんとうにすばらしかった。

・鎌倉見学：日本文化研究、研修旅行、出身地研修はぜひ、残しておいて頂きたいと思います。

・新宿日本語学校見学：新しいメソドを使った、教え方、江副先生のジュスチャーを使った授業方法など、実際にすぐ役立つと思いました。今年は見学だけに終りましたが、ぜひ、センター内でのカリキュラムの中に取り入れて下されば…と思いました。

・体育：この時間は、榎本先生のチャーミングな笑顔を生かして、体操だけではなく、みんなで歌ったり遊んだりしたかった。コーラスなどという大げさなものでなく、みんなで斉唱するだけでも良かったと思いました。

・食事：おいしかったけれど、欲を言えば、煮物やカツ、油を使ったものは熱くして頂だければもっとおいしく頂けたのではないかと思いました。

4．所　感

私は、この研修に参加させてもらえた事を当初よりずっと深く感謝致しております。

それは、現在の日本、日本人の心、日本人の生活などをじかに見、聞き、実際にその社会の中で暮した事です。

それは、私の中で育っていた、10歳の時の感覚としての美しい日本ばかりではなく、活動している日本を発見できたからです。

そして美しい玉川学園に通い、学んだ、全人教育という事を頭に入れながらも、どのようにして適切に日本語を教えていくのか、という事をもっと知らなければならないと思いました。

それにはセンターや玉川で学んだ事をじっくりと復習して、ブラジルの子供達と共に進んで行きたいと思います。

この3ヶ月、JR根岸線で通った玉川学園、色々とお世話になった海外移住センターのみな様、そして、20名の仲間のみな様、たいへんな時もありましたけれど、団体の中での集団生活、とても貴重なものでした。

ほんとうにありがとうございました。

ブラジル国サン・パウロ州
サンベルナンド日本語学校
野　口　民　恵

1．当初、研修に期待したこと

1．外国語としての日本語教授法の習得

2．人形劇、演劇に依る会話力の伸ばし方

3．全人教育に対する期待と興味

4．自分を磨くこと

5．日本の文化の再確認

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

○日本語教授法の講義を受け、目の前が明るくなったようです。今すぐ使えるものばかりではありませんが、応用し、考えていきたいと思います。

○表現教育、特に朗読劇、人形劇など積極的に取り入れるつもりです。

○研修旅行、見学等で知識を得た、文化、文明等について話してやりたい。（特に日本文化とことばのつながり…等）

○遊びの中、リズム感の中で、体で感じさせながら楽しく授業を進めるということは素晴らしいと思います。ぜひ実行したい。

○日本の良さをみんなに教え、日伯交流の一因になれば嬉しい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

○新宿日本語学校での講義は3時間余りでしたが本当に有意義たったと思います。もう少し時間が増えたらいいと思います。

○幼稚部での参観や実習にもっと時間をかけたらと思います。

○小学部の英語の授業参観は、大変参考になりましたが、中学部は毎週となると時間が多すぎたと感じました。

○お花・書道は、とても楽しくて良かった。

4．所　　感

紅葉の秋を満喫する事ができ最高でした。

特に小田原、京都、奈良の研修旅行は親睦を深める為には十二分に効果があったと思われますし、古都の良さ、古都の情緒を再確認する事が出来たという事が、大きな収穫だったと思います。

続いての母校研修も、JICAの方から前以って学校あて要請して下さっていた為、スムースに有意義な研修及び実習をする事が出来た事は大変良かったと思っています。JICAの心遣いに感謝致します。

それから、同室の人達との和の大切さ、人との協調性の必要をつくづくと感じました。

私の部屋は三人でしたが、私も二人に助けられ励まされ勇気づけられて、楽しい3ヶ月の研修を終らせる事ができた事が大変嬉しく、又何よりの勉強だったと思っております。

華道、茶道、書道ですが、選択でどれかを選んで週何日かみっちり習えば、もっと身につくのではないかと思います。

本邦3ヶ月研修という素晴らしい研修を受けさせて頂き、本当に嬉しく有難く思っています。御指導頂きました先生方、そしてこのような貴重なチャンスを与えて下さいましたJICAの皆さまに感謝の気持ちで一杯です。

課せられた責任を全うする為にも、皆さまの好意を無駄にしない為にも、帰国後は研修の成果が上がるように私なりに努力して行こうと決意しています。

色々とありがとうございました。

ブラジル国サン・パウロ州
日伯文化連盟
川　崎　晴　美

1．当初、研修に期待したこと

・日本の国とのふれあいによる日本語教師としての改善

・全く日本語の分からない三・四世の子供達、又は非日系人が楽しく学習できる新しい教授法

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

・玉川やセンターで学習したものを自分のものとして持って帰り、今後もブラジルの三・四世、又は日本語に興味のある非日系人に日本語を教え、日本の文化・習慣などを伝えようと思います。

・日本語力の不足を痛感し、勉強をしながら教えようと思います。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・研修の期間は3ヶ月で、私達Aコースにはちょうど良かったと思いました。秋の季節も本当に美しくて紅葉の見られるチャンスでした。

・Aコースに入れて頂く二世はコースのレベルに合わせるように努力するべきです。

私は二世で、日本生まれの先生方について行けないと心配しましたが、皆さんに助られて終了の

日まで来ました。甘えて“あの講義は難しすぎた”とか、“もっと簡単に教えて下さい”と言った事が自分の欠点だと思います。

・二世の人にも希望があれば、郷里研修をさせて頂きたいです。私は出身地というものが日本にはないけれど、母の生れた北海道に行かして頂いた事がありがたかったです。

4．所　感

3ヶ月前に日本に着いた時の私と、今の私はずいぶん変りました。来た当時の私は日本は父母の国であって、自分の国は確かにブラジルである、と一つのプライドを持っていました。現地で日本語を教えていても、日本語は自分の母国語だとは思えず、外国語の扱いさえしていました。

が、この研修が終る今日、日本語は余り上達してはいませんけれど、自分の物と感じ、それよりも、この日本の人になれたような気がするので、日本人としてのもう一つのプライドを自分の中に入れて帰ろうとしています。

この変化はどのように起ったのでしょうか。

振り返って見ると、来た当時、私は初めての日本の全てが物珍しく、自分のブラジルと異った文化・習慣などが目に付きました。まごつき困った事もたくさんあり、他の先生方の優しい助けによってだんだんと慣れて来ました。

玉川学園やセンターの講義を聞き、通学の電車の中でも、現在日本の日常会話や習慣などに接して、いろいろと学び、日本人の思考や性質が分かってきました。それに伴って私の中で何か変って来るものを感じました。

他の先生方との接触が増えるにつれて、なじみもだんだん強くなり、日本人との出会い毎に同じものを感じて来ました。

又、鎌倉見学・京都・奈良見学では、日本文化にふれあい、何度も感激し、昔の自分に出会ったような気が日に日にふくれて来ました。

それで、北海道の郷里研修の時には、不思議にも私は自分の故郷を訪ねた気持ちになっていて、研修先の幼稚園の園長先生・初めて会った叔母とは久しぶりの再会だった感じでした。

この研修も終りました。今からブラジルへ帰り、又、前のブラジル人の中での生活を続けます。外見は全く3ヶ月前と同じように見えるでしょうが、私の見る目が違って来るのではないかと思います。日本語を教える時にも、もっと生きたものを教えられるのではないでしょうか。

この大きな変化の機会を下さった皆様に心から感謝いたします。

アルゼンティン国ブエノス・アイレス州
ブルサコ日本語学園
佐　藤　　隆

1．当初、研修に期待したこと

1．祖国を離れて30年間のギャップを埋めること
2．現地で使えるものを見付け出す（アイデア、ヒントも含めて）
3．研修を通して更に自信をつけること
4．世界的視野からの日本の欠点を確認すること

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

語学の技術的部面は言うに及ばず、言葉を通して日本の心、日本の文化を理解してもらうよう、教育界から工夫して行きたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

規則、資格にとらわれることなく、研修生の送り出しは、現地の出先機関のユニークな、そして正確な決定に任かせる。

4．所　感

莫大な費用を、国民の血税を消費しました。ありがとうございました。
この研修を、これから少しでも、日本の国際社会へのかけ橋の役に立てたいと思います。

アルゼンティン国リオ・ネグロ州
コマウエ日本語学校
大　城　和　子

1．当初、研修に期待したこと

今までの自己流の教え方から脱皮して、外国人に対する指導法、最初から音声学、会話指導法、情操教育、学校経営、ありとあらゆる面を吸収して私自身の教養を高め、地域にあった教材作りをしていきたい。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

先生は生徒の鑑である。すばらしい良い教師になるために、努力し、諸先生方の講義内容をまと

めて、カリキュラムをたて、手話、遊びながら学ぶ、そして楽しく授業ができるようにしたい。同窓会からの援助により学校の建て増しが実現しそうです。この研修会が私の大きな実業につながり、玉川の農学部で習ったキュウリのつぎ木のしか方も勉強になりました。

学校を持続するには、自営農もしっかりと研修の総まとめをして、労作教育も考えてみたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

現地教師にとって有意義な制度です。今後共続けてほしい。また健康管理に十分注意しましょう。今回もAコース、Bコースと病人が出て、川畑課長さんは本当に大変だったと思います。留守宅も心配でしょう。短いようで長い研修生活、もう少し規律正しい生活をしても良いのではなかと思いました。洗濯場やもの干しの使いばなし、洗ったものの山（後の人が使えない）、中南米の後進国・貧弱さから思えば、物をそまつにする事はできません。

4．所　感

本邦研修の通知を受けた時、主人（81年度優良移住者招待）に続いて2度目の招待のため、夢のようで、言葉で言い尽くせない感謝の気持ちでした。貧しかった自分の幼年時代、戦争で枯れ野原となった沖縄、いつか大きな大陸へ行きたいと思っておりました。

高等学校に進学したのも、姉の援助（姉妹弟5人中学校を出た後働いた）、そして夏休みにはアルバイト（アイスキャンデー売り、日雇労務）と大学進学は夢でした。

けれどこの四十路にして、玉川大学の高度の講義、教授法、又幼稚部でのダンスや手話をまじえた教育内容等々大変勉強になりました。鎌倉、京都、奈良の研修旅行、歌舞伎見学などと貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

移住して12年目、現地の生活になれたとは言え、インフレの激しいアルゼンチンでは、リンゴ園経営ではとうてい帰国できませんでした。けれど本邦研修によって老いた両親や肉親に再会できた事、30回目の高校の養秀同窓会に出られたこと、又恩師の石川先生の病気お見舞、死に直面し、葬儀場やその他養護施設、寝たきり老人の世話の仕方（おむつの取りかえ方など）といろいろな体験や情報交換をもって日本社会の情勢を勉強させてもらいました。その体験を地域社会の人達に伝えて行くのが私の使命として、生涯頑張って行きたいと思っております。この3ヶ月、いろいろなことがありました。着く草々台風17号、19号にみまわれ、蒸し暑い日が続いたと思えば、12月に入って6日、13日と雪が降り、研修生の中には初めて見る雪に感激したり、送出荷物の整理中に大きな地震（震度4）にあい部屋が大さわぎになったり、とにかく波乱に満ちた本邦研修でした。

招待下さいました、国際協力事業団、玉川の諸先生方、移住センターの皆様、食事作って下さった方、おそうじして下さった方々、本当にお世話になりました。お身体を大切に又お会いできる日を信じております。心からお礼を申し上げます。

パラグアイ国アマンバイ県
アマンバイ日本語学校
横畠愛子

1．当初、研修に期待したこと

○基礎学力を充実、向上させる学習方法

○豊かな学校生活での児童、生徒の活動

○漢字、作文の指導方法

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

○3ヶ月間、多くの先生から指導して頂いた事を、現地の先生方に報告し、時間をかけて、研修の成果を生かしていきたい。

○環境と教師の心構えが大切であり、教育に対して広い視野で、子供の心を大切にしてあげたい。

○紙座や折り紙の楽しさも、教科書を教えるだけでなく、今後教えてあげたい。

○自分が研修期間中肌で感じた、美しい紅葉の色変わり、降雪の大感激、センター3階の地震の恐怖等、パラグアイの子供達に話したい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

○今後共今の時期で継続し、1人でも多くの先生方が研修出来るよう願いたい。

○センターでの木曜の授業は金曜日も続く方が良いと思う。日本事情（丸山先生）もぜひ継続してほしい。

4．所　感

私は本邦研修の日が近づくと、期待と不安がいっぱいの気持ちでしたが、JICAのセンターの皆様の暖かい真心に、いつしか不安も消えさり、3ヶ月の研修を一生懸命頑張って来ました。早朝ラジオ体操で一日のスタートをし、快適に登校出来た。

先輩の先生方から、玉川の研修は理想的な環境に恵まれ、大変良い所と聞いておりましたが、今、「百聞は一見にしかず」を体得しました。

研修を受けながら、自分に課せられた「教育」の責任の重大さを身にしみて学びました。

この3ヶ月間で習得してことを、今後「移住子弟」のために全力をつくし努力していきます。

事業団本部の方々、玉川の諸先生方、JICAの移住センターの皆様、素晴しい研修の日々を過させて頂きました事を感謝致します。

パラグアイ国イタプア県
ラ・パス日本語学校
丸　山　みどり

1．当初、研修に期待したこと

①音楽が盛んといわれる玉川で、音楽を中心とした日本語教育指導法を学ぶ

②全く無学である私自身の日本語教師としての向上

③現地の子供達に伝えるため、両親の故郷である日本の文化を目の当たりに見ること

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

玉川での研修で、いかに自分が無計画に授業をしてきたことかよく分かりました。これからは私なりのカリキュラムを作成し、それにそって日本語指導をしていきたいと思います。また、手遊び、音楽等を授業にとり入れ、楽しい日本語学校にしていきたいと思います。

玉川で教わったことすべてを役立てることができるかどうかは分かりません。しかしその中から私なりにつかんだつもりです。自己反省を忘れず、子供達の立場になり、気持ちになって、「教師は水車のごとく」この言葉の通りに生きていけるよう努力するつもりです。

「進みつつある教師のみ人を教うる権利有り」この言葉忘れません。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

私は音楽が好きだし、子供達にも絶対必要だと思っておりますので、今回の研修にもそれを大いに期待してきました。しかし実際には、音楽の授業は少なくちょっと残念です。

そういう意味では、自分が望む教科を選択できるシステムであればと思います。また毎日講義を聞くだけでなく、実技をもっと取り組んでほしいと思います。

ちょっと寒かったけれども、時期的にはとても良かったと思います。

4．所　　感

始めに、この研修を企画実施下さった国際協力事業団の方々に、そして玉川大学の諸先生に心から感謝致します。

日本に来て見るもの、聞くものすべてが私にとっては勉強でした。本当に楽しい３ヶ月間でした。

玉川大学での講義ばかりではなく、センターでの人間関係も私にとって貴重な経験でした。団体生活を通して、いろいろな事を学びました。これらの事はこれからの私の人生の励みとなり糧となると思います。

長いようで短かかったこの３ヶ月間、私なりに頑張ったつもりです。共に３ヶ月学んだＡコース

の先生方、Bコースの皆さまとの出合い忘れません。

ペルー国　リマ市
チャクラセーロ小学校
福　島　ローサ

1．当初、研修に期待したこと

自分自身の日本語の知識を高める。

日本の文化や伝統的なものを見たり聞いたりして歴史などを理解したい。

現在の日本を知り、日本人と接触して、現在の日常生活、習慣、言語活動や日本的心情等を理解したい。

専門的な日本語の指導法を学び、子供たちの日本語への関心を高めたい。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

日本へ来て、先ず感じたことは、顔は同じ日本人なのに、二世の私とは習慣や思考などに違う点がたくさんあるということです。

それで慣れるまでずいぶん戸惑ってしまい、日本の方々にいろいろ迷惑をかけただろうと思います。

ペールで思っていたよりも、日本語は難しいということを、改めて認識しました。

日本人独特の感覚で一つの言葉が言い方によって、微妙に異なるということにいつもおどろかされました。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

私はペールで日本語教師として自分でもあまり自信が無い日本語を教えていました。日本へ来ることになり、どのような研修で、どれだけの日本語に対する知識を持っていなくてはいけないのか、研修生がどの国から何人来るのか、日本での生活、各国の方々とふれあう中で各国の文化・日系社会の事情を知ることができた。これを契機にこれからもいろいろな経験を交換しあって行く道を広めたい。

センターでの勉強は大へんよかった。

自分たちの研修のテーマやいろいろな勉強をするためにも、自己研修があったことはよかったと思いました。

4．所　　感

私の研修のために講義をして下さった先生方の中には、大いへんすばらしい先生方もいらっしゃいました。

この3ヶ月、センターでの授業は良いと思いますけれども、12月に入ると自己研修発表、旅行、いろいろな所の見学等で非常に忙しく、レポートや帰国準備等をするには大変でした。このようなことがないように、だって研修のためでしょう。それぞれみんな研修に打ち込んでいると私は思っております。

私にとってすばらしい研修で、良い経験になりました。お世話くださった先生方、センターの皆様どうもありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

さようなら

チャクラセーロ小学校

リーマ・プール

ボリビア国サンタクルス県

サンファン学園

高　野　知恵子

1．当初、研修に期待したこと

○自ら学び行動できる子の育成を目指す指導方法工夫

○現在の日本社会と教育システムと方針を知り、ボ国にてどのように生かすことができるか。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

○積極的に自身の確立を目指し、勉強が必要だと認識し、もっと教えられる側に立ち指導していきたい。

○ことばを生き継ぐことを忘れず、ボ国の日本語教育をレベルアップしていきたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

○研修期間は9月初めから11月末迄が良いのではと思います。

○玉大の研修で、長野教授、石橋教授と方教授（日本語教授法、教育原理、表現教育）

センターでの研修で丸山教授の日本事情の各授業時数を増して欲しい。

4．所　　感

この研修を企画実施して下さった国際協力事業団と、心温い指導をして下さった玉川大学の諸先

生、ならびに移住センターの皆様に心より感謝致します。

人間が人間を教育するという仕事の重大さと厳しさ、なまはんかでは教壇に立てないことを心から理解することができました。それと共に自分の未熟さが深く悟られ、心から反省させられました。

南米の広くて青い空のように、寛大かつ澄んだ心で心気一転がんばりたいと思います。

カナダ国ブリティッシュ・コロンビア州
フレーザーバレー日本語学校
間 庭 文 子

1．当初、研修に期待したこと

ⅰ）基礎学力を充実向上させるための学習指導法の工夫

ⅱ）能力別学習指導方法

ⅲ）家庭学習の指導方法

ⅳ）工作等を通して楽しみながらの言語教育法

ⅴ）視聴覚教材を使用しての指導法

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

私の教えている地域には一世日本人家庭がこれから増える可能性はまずないので、これからは伝承言語としてでなく、二世語としての日本語教育になっていくわけですので、今迄日本にもどこにもなかった長期にわたるカリキュラムがすぐに必要となりますので、これからはそのカリキュラム作りに励んでみたいと思っています。長野先生に教えて頂いた専門家としての日本語教師となるには、通らなければならない問題であるわけです。それにはきめの細い能力別学習指導案を立てる必要も出てくると思います。又、幼少であればある程、子供には動機（motwation)が弱いので、方先生から教えて頂きました表現教育などを取り入れて、楽しみながら正しい発音を覚えさせる授業に出来たらと思っております。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

日本へやって来る以前に、教師達は、日本での授業に耐え得るだけの知識と能力をつける必要があると思います。日本語教師の方の質をもっと厳しく選定する必要があると切に思います。物見遊山の気分で来ないように。たった3ヶ月の授業中に昼寝などしないような緊張感が必要と思います。もっと問題意識を持って授業にのぞめるような教師の選定を強く望みます。そうすれば授業の方もより一層専門的な充実したものになると思います。

4．所　　感

8月末に急にお話があって来ることになってしまい、私自身、研修に対し何の準備もすることも出来ず、ふわぁーと特別な心配もせず来てしまいましたが、たった一人で根岸の移住センターにやって来て、まだ仲間がいない冷え冷えとした部屋で一晩過ごしたことは本当に恐怖でした。それと共に3ヶ月間もの長い間大丈夫かなという不安が急に広がって来たのでした。

19人の仲間が着いてからは、私一人がいつも皆と話が合わず"へーっ"と、珍しい異なった文化のお話を聞くことが出来て毎日大変楽しかったです。

一人一人とても個性が強く、自分を主張することが第一義になってしまっている人も多く（私も含め）、まとめ役の方の御苦労はいかばかりかとお気の毒に思ったものです。

又、玉大での研修はほゞ20年振りの進学となり、何となく本ものの学生気分になり、この貴重な機会を何とか有益なものにしようと、諸先生の一言をもらすまいと、緊張して講義を受けさせて頂きました。事務の方達をはじめとして諸々の先生方の御苦労のすえ、私達は何の心配もなく、安心して講義を受けることが出来ましたこと感謝に耐えません。

ここセンターでの研修も、それぞれの先生の特徴がよく出ていて、私は大変心待ちにしていたものです。

課外研修も榎本さんや川端さんの御指導宜しきを得て、貴重な体験を重ねることが出来ました。江崎さんはテープのダビング等々の面倒なお願いにもかかわらず、つぎつぎと片づけて下さり、且つ心配そうに大丈夫かとお声をかけて下さるその行き届いたお心遣いには頭が下がりました。

受け付けの方達の御苦労たるや想像を絶するものがあったことと思います。お掃除に来て下さる方達あってこそここセンターでの生活は、快適できれいに維持していけるわけです。上げ膳据え膳にも感謝。一方私達とは直接接し合う機会はございませんでしたが、センターで働いて下さる方々、本部の方々等、沢山の方達のお力添えによりましてこのような貴重な経験を積ませて頂き本当にありがとうございました。皆様の御発展と、御健康を、遠く離れた、カナダの地よりお祈り申し上げます。

"三ヶ月　学びしことの　重きかな　楓の国に同僚（とも）は待ちゐむ"

Bコース研修総括報告書

期間：1986年4月10日～1987年3月27日（1年コース）

ドミニカ共和国サント・ドミンゴ市
サントドミンゴ日本語学校
竹中章子

1．当初、研修に期待したこと

1）日本語能力を向上すること

2）学習者達が日本語に興味を持つような教授法を習得すること

3）日本人の心、思想、感情、習慣、生活、価値の階級などを理解すること

4）日本人は勤勉で真面目な国民です。その国民精神を育てるための土台となる教育とは、どんな教育なのか

義務教育のカリキュラムなどは、どういうねらいを持っているのか

5）日本は数年の内に高度成長を遂げることができたが、その原因は何か、などに付いて好奇心を持っていました

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

日本語能力を向上する方法を先生方に教わり、これから「教うるは学ぶの半ば」ということわざに基づいて、他人を教えると同時に、私のまだ未熟な日本語能力を高めていきたいと望んでいます。

また、丸山先生のお言葉「常に学びつつある者のみが、教える権利を持つ」を忘れず、今日から本当の日本語教師研修が始まる覚悟で頑張りたいと思っております。

帰国後、日本語だけの知識にかたよらず、表現や心を豊にする教育に励みたいと思います。また、日本人であることを誇りに持って生き、それと同時に、ラテンアメリカの発展にできるかぎり協力するような精神を、二世、三世の心に育てていきたいと思っております。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1）1人の教育者を養生することは、何百人、何千人の学習者を教育するのと同じことだと思います。従って、現地日本語教師本邦研修制度は現在のラテンアメリカで活動している日系人に大変必要だと思います。三世、四世、五世が日本語を通して日本人の心を理解できるようになるには、これからもこの研修をぜひ続けていきたいと思います。

2）最初の3ヶ月間は科目があまり多すぎるような感じがしました。もう少し、私達の日本語能力を向上するための勉強に集中できたらどうかと思います。

3）研修テーマの作成は大変素晴らしい考えだと思います。しかし、土曜日の午前中だけでは時間が少なすぎるように感じました。

4）日本語能力を向上することや日本語教授法を学ぶことも大切だと思います。しかし、せっかく日

本に来ていますので、日本人ともっと接する機会があればいいと思います。

5) 玉川大学で国語の授業参観をもう少し増やしていただければと思います。

6) あと12年で21世紀が始まるこの世の中は、いろいろな知識や発明がつぎつぎに現われ、猛烈な速度で動いているようです。従って、いつも勉強に励まなければ、時代おくれの人間になる可能性があると思います。この研修で大変りっぱな日本語教授法を教えていただきましたが、あと5年もたてば使用できるとはかぎりません。ですから、教育者の養成を絶えず続けていくことが大切だと思います。

4、所　　感

桜の花が美しい日本に来て以来、緑の若葉や色とりどりのきれいな花が目につく春、にぎやかなセミの声が聞こえる暑い夏、紅葉で着飾った秋、夢の世界を思わせる雪景色など、ドミニカでは見られない四季の変化を体験することができ、この1年間感動せずにはいられませんでした。

設備が整ったセンターで、何の不自由もなく勉強に集中することができ、大変充実した1年を過ごさせていただき、ジャイカの皆様、それに親切に教えていただいた先生方に厚くお礼申しあげます。

また、玉川学園では、自然に囲まれた広い環境で学問を学ぶことができ、非常に恵まれていると思いました。

この1年間の授業や授業参観などを通して、小原国芳先生の精神が一人一人の先生方に生き生きと表われていて、「教育に、愛と信頼はかかせない」ということを、体験的に学び取らせていただきました。

授業の外、素晴らしい運動会、文化祭、舞踊発表会など拝見させていただき、次のことを感じました。

1) 玉川学園は幼稚園から大学部まで仲よい家族のように、心を一つにして協力しあっている。

2) 頭だけの教育にかたよらず、心と身体表現を豊にするための教育が行なわれている。

3) 日本文化を大切にすると同時に、広い心で外国文化も取り入れている。

4) 人間と神には深いつながりがあること。つまり、宗教の大切さを明らかにしている。こんなに全人的に調和のとれた教育を生みだされた小原先生を尊敬せずにはいられません。

この1年間、日本語が完璧でない私達に、辛抱強く教えていただいた玉川大学およびセンターの先生方に心からお礼申しあげます。

なおセンターでは、宮広所長始め、ジャイカの皆様が親代わりになって、研修生の面倒を見て下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。まことにありがとうございました。

ペルー国ウカヤリ市
アルナル中学校
長谷川　　薫

1．当初、研修に期待したこと

日本語の教師として現地で活躍するためには次のことを期待していた。

1．日本語の基礎の習得
2．日本語を外国人に教える時の教授法
3．日本語を教えるための教材について
4．日本の文化との触れ合い

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

この1年間学習させていただいたことを、現地の教育に合せて、日本語を楽しく、面白く生かしていきたいと思います。そしてペルーと日本の文化の交流を深めていきたいと思っています。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

この1年間とても良い研修をさせていただきました。今後もこういう機会を設けていただきたいです。授業で受ける研修も大事ですが、見学研修をもっと多く体験させてほしいと思います。

4．所　感

日本語を実際日本の社会で“学ぶ”ということは、ペルーの日本語学校で何十年も勉強するよりずっと効果的でした。そして日本の文化とペルーの文化を比較することが出来て、あちらでは絶対分からなかったことがいろいろ分かりました。

日本に行きたいという、小さい時からの夢をかなえてくださったJICAの皆様、そして熱心に指導してくださった諸先生方、この1年間本当に御世話になりました。誠にありがとうございました。

パラグアイ国イタプア県
ラ・パス日本語学校
遠　藤　ル　リ

1．当初、研修に期待したこと

1．日本語の基礎知識の習得と自分自身の日本語力のレベルアップ
2．授業参観等を通して、子供達にもっと楽しく日本語を教えられるような日本語教授法を身につ

けること

3．日本の文化にできるだけ多く接し、日本人の心、考え方、精神、礼儀、日本語の表現方法などといった目に見えない文化を知ること

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1．玉川大学で習った音楽、手あそび、体や言葉を使った表現活動等を多く用いて、子供達の想像力や思考力を養うとともに、子供達が『日本語を使って楽しめる』ような日本語教育に取り組んでみたいと思う。そして以前より効果的な日本語指導が出来るように努力したい。

2．『常に学びつつある者のみが教える権利あり』この言葉を基に日本語指導に取り組んでみたい。

3．日本語を外国語として教えるのみではなく、「日本人の心」、習慣、風俗等、日本の文化的面も伝えたいと思う。

4．新宿日本語学校、早稲田大学、東京外国語大学等で授業参観に行った際、色々な日本語教授法を見ることが出来た。これらを自分なりに工夫して現地で実際に使ってみたい。

5．日本語は、勉強すればするほど『まだまだ足りない』ということが分かる。帰国後も単に日本語を教えるだけでなく、自分自身も日本語についてもっと勉強する時間をもうけたいと思う。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

1．小学校の国語の授業参観

2．指導案と年間指導計画の作成

　これらの時間をできれば増したら良いと思う。

今後、益々日本と外国の交流が深まる傾向にあるため、日本語を学習する人が増加することが予想される。だからこのような日本語教師を育てるための制度がつづけられることを望む。

4．所　感

私は二世でも日本人の血をひいているのでその文化を理解する必要があり、これから三世や四世に伝えなければならないと思った。

それには、日本語をまず自分が覚え、そして教えるのが一番よくて最も大切だと思ったので日本語教師の道を選んだ。

十分な日本語教育をうけなかった私には、指導方法に悩む事ばかりだった。そのため生徒達に自信をもって指導することが出来なかった。しかし、JICAのおかげで今回の研修に参加することが出来、多少の自信を得たので、学んだ事を自分のものとして生かす様に努力したいと思う。

この研修では、日本語の習得の時間の他、研修旅行やホームステイ等も貴重な経験となった。

古代建築、大仏、日本庭園等を十分に見学した。又ホームステイでは、日本の一般の家庭の一員

として生活を体験することが出来た。

また、この一年間を通して色々な行事（七夕まつり、盆、正月花火大会、その他）を体験することが出来た。これらの行事には日本の自然環境（四季）の影響が非常に強いことは興味深く感じた。

厳しい日本語の研修の中にも、こういった所外研修などももうけてあり、本当に充実した1年だった。

長い様で短かかったこの1年間は1日1日を大切に生きたように感じる。

レポートが思うように書けなくて悩んだ日々や、試験や発表前の徹夜の日など『つらい』時もあった。

研修が終りつつある今、この1年間をふりかえってみると、すべてが楽しい思いでとして心の底に残っている。

私は、今回初めて両親の祖国である日本へ来た。父母のもとを1年間も離れたのは生まれて初めてである。しかし、横浜の移住センターの職員の皆様が実の親のように面倒をみてくれたので、恵まれた環境で研修生活を送ることが出来たのに感謝をしている。

国際協力事業団本部、海外移住センターの職員の皆様、玉川大学の先生方、そしてセンターに講義に来られた先生方に心よりお礼申し上げる。

アルゼンティン国コルドバ州
コルドバ日語学校
白水　グローリア

1．当初、研修に期待したこと

1．日本語能力レベルアップ

2．日本語教師としての基礎知識の習得

　a．日本語教授法

　b．教材研究（教材開発）

　c．外国語としての日本語授業参観

　d．指導案の作成（カリキュラム）

　e．音声指導法

　f．現在の日本語教育の状況

3．日本文化研究

　a．日本の歴史

　b．日本の芸術

　c．日本の文学

d．現代日本事情

e．日本伝統（年間行事、祭り）

4．生きた日本語、生の日本語と多く接触

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1年の研修を通して日本語教育をあらゆる分野から見ることができた。この中から幾つかをしぼって追及していきたい。

1．日本で行なわれている日本語教育と、現地で行なわれている日本語教育を対照して、各地域に適応する教授法や教材研究を進めていきたい。

2．現地における日本語教育の諸問題を研究し改善していきたい。

3．後継者の不足にあたって、日本語を後世に伝えていくことを大切にしたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

短い1年でしたが現地では何十年かけても得られない経験や学習をさせていただいたことを心からお礼申し上げます。

海外では日本語に対して二つの傾向が見られる。

一つは日系人社会で日本語が消えていっていることと、反面では外国語としての日本語熱が高まっていること。

この二つの問題に応ずるにはしっかりした日本語教師を育てることが大切だと思う。

だからできるだけ多くの人々がこの研修制度に参加して欲しい。今後の研修生のためには：

1．学校見学を後半に回した方が効果があると思う。2．実際に外国人に教えている授業を見学し、できれば実習を取り入れられたら良いと思う。

4．所　感

自己の未熟さを再認識した上、日本語教育のため、自分自身のため一生日本語の勉強を続けていきたい。

教師の道は決して楽ではないと思うが、それだからこそ挑戦してみる価値があるのではないだろうか。

様々な不安や問題を抱えながら生徒達と供に学び続けていくのが大事であると思う。

私自身は教師としての経験は全くないと言える。だがこの1年の研修のおかげで日本語に少し自信がついたと思う。難しかったこともあった、悩んだこともあった。けれど苦労して身につけたものこそ自分のためになるでしょう。

そして悩やんでいた時の仲間の暖かさ、先生方の寛容心センターの一人一人の心くばり、深く心

にのこった。

だからこの研修期間はただの学問的の1年ではなく、私達の一人一人が人間として成長していったともいえるだろう。

玉川大学の全人教育で目指している人間全体の育成も、この1年適えられたのではないかと思った。

真＝日本の美しい自然を体で感じることができたこと

自然は物事の真の形であると思う。

善＝正しい、良い教師になることを目標として努力したこと

美＝日本文化をたずねることによって、東洋と西洋の感じ方、美に対する感覚を学んだ。

帰国後この研修で吸収したことを発揮して、現地の日本語教育のためできる限りのことをしたいと思う。

日本での皆との出合いを大事にしていきたい。

国際協力事業団の皆様をはじめ、玉川大学の先生方、センターへ来られた先生方に心からお礼申し上げます。

ブラジル国ブラジリア
ブラジリア大学外国語学部
三分一　直　美

1．当初、研修に期待したこと

－日本語のレーベルアープをすること

－日本の歴史を学ぶこと

－日本の文化、人間関係、習慣、季節などをじっさい見て感じること

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

今日まで国際協力事業団や玉川学園で学んだことを生かしていきたいと思います。日本語を教えるときはただ、言葉だけではなく、遊びや表現教育、音楽、芸術（折り紙、紙座、あやとり）等を入れて楽しく教えたいと思います。

又、教師や学生だけではなく、一般的な人々にも日本で学習したことを伝えていき、少しでも日本の良さを知り、理解が出来るようにしたいと思ってます。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

この1年間とても素晴らしい授業を受けさせていただきました。

玉川大学の音楽、表現教育、全人教育、小学校授業参観などはこれからも続けていただきたいと思います。この教育の仕方は、ただ教科書などで勉強をするのではなく、一人一人の人間をつくるという素晴らしさがありました。これが本当の教育ではないでしょうか。

又、センターの授業も本当によかった。先生方の熱心なことにはとても感動しました。

ただし、できれば1年のコースではなく、2年のコースであればもっと深く勉強ができるのでうれしいと思いました。

幼児や小学生を教育する方のためにレクリエーションなどの授業をふやしてほしいです。

ホームスティなどのような、人と接する機会もふやすことができればとてもいいと思います。

4．所　感

今回、日本語教師本邦研修生として選ばれ、この1年間勉強をさせていただいたことを本当にうれしく思っています。

この体験は一生忘れられないでしょう。

玉川大学で普通の学生と一緒に勉強をすることは、難かしかったけれども、日本人とのふれあいができてよかったと思いました。

又、国際協力事業団の見学、授業参観、研修旅行、座禅などは普通ではできないことばかりで、色々な体験ができました。その経験によって日本の素晴らしさがわかり、帰国後は他の人に伝えることができるでしょう。

日本に来日したころは、何年も教えたことがある人達と一緒に勉強をして行くことが不安でした。

けれどもJICAの皆さん、先生方、日本の友達やセンターの皆さんに暖かくしてもらい、力づけられたおかげで今日まで頑張ることが出来ました。

本当に心から感謝をしています。

どうも有り難うございました。

ブラジル国リオ・デ・ジャネイロ
カンポ・グランデ日本語学校
藤　本　清　美

1．当初、研修に期待したこと

日本語教授法を身に付けること

日本人と触れ合い、実際に日本の習慣、生活方法、季節を体験すること

日本の文化を身に付けること

日本人の心を少しでも理解すること

現在どのくらい日本語が外国で使われているかを知ること

現在日本は色んな面で優秀な国といわれているため、世界中の外国人の興味を引き、留学生の数が増加しています。しかし日本人は外国に対してどう思っているのか。

2、今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

研修の生かし方はとても良かったと思います。色んな学校を見学することはとても参考になり、華道、茶道、書道を身に付けるチャンスがあり、違った又は新しい教授法を身に付けるチャンスも与えられ、日本語能力をアップ出来ました。時間的には忙しい週もありましたが、「人間はひまがないと思うほど、多くのものを出来、余裕があると思うほど、ぼんやりとしてしまう」ものだと思います。もちろん人間のリミットもありますが、私達の研修中では、リミットをこえることはありませんでした。

研修が進められた、この環境はとても良かったと思います。きちんとした、勉強をする気にさせる教室、辞書又は教材が沢山おかれてあるセンター、しずかで広い建物、努力者の仲間に囲まれて勉強すること、一つ一つが勉強をすることをもっと楽にさせたのではないかと思います。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

これからのＢコースのためにしてあげればいいこと：

最初のころはもっと日本語能力をアップして、教授法はもっとあとの方にした方が良いと思います。

茶道の授業の形を少しかえて、一人だけがお茶をたてている間、みんなはただ見ているのではなく、四人ぐらいいっぺんにしたらどうでしょう。

東京見学は５月ではなく、もっとあとの方が良いと思います。

日本語能力試験のための授業をもっとふやしたら良いと思います。

博物館を見学する時間は少なかったと思いましたので、もっと時間的に余裕があれば良ではないでしょうか。

帰国準備は大変ですから、それももっと余裕があった方が良いのではないでしょうか。

最後になって本を買うことを言うと、もう買った人が出て来ますので、もっと早くからそれを知らせてくれた方が良いと思います。

4．所　　感

この１年間は色んな面で大変勉強になりました。勉強というのは、ただ机にすわり、一生懸命知識をインプットするだけではなく、色んな所を見学すること、団体の中で見ながら、悪い良いの区別をし、成長していくことです。

日本での１日１日が経験でいっぱいで、いつも何かに感動しながら過ごして来ました。最初は、つらくて、つらくて、何よりも帰国したかったです。けれども、ただ帰りたいから帰ることは決して出来ないし、がまんするしかありませんでした。しかし、がまんすることには大きいメリットがあります。そのメリットは今になってはっきり感じています。あさっては私達の帰国日です。私はもっといたいと思いながら、来てすぐの頃の、帰りたかったことを思い出して、何だ、帰れなくて良かったじゃないと思います。

さくらをながめること、富士山を登ること、ディズニーランドへ行くこと、花火大会や七夕祭を実際に見ること、広島、京都、奈良を旅行すること、スキーをする又は雪で遊ぶこと、歌舞伎を見ること、鎌倉や東京を見学すること、玉川の自然豊かな環境で勉強すること、日本の親戚に初めて会うこと、日本の文化又は日本人とふれ会うこと、全部日本に来たからこそ出来たこと。

何年間も夢をみていた沢山のことを１年で体験でき、思い出が沢山できたから、これからは前よりずっと人生を楽しみ、大切にすると思います。

最後に、このチャンスを与えてくれたJICAに心をこめてお礼を申し上げます。そして、やさしい先生方、クラスで一番日本語能力のない私に対して、知らないからと言ってほったらかしておかず、みんなと同じく、時々もっと注意深く教えてくれて、本当に感謝しております。先生方の親切さのおかげで、私は劣等感を段々なくして行って、授業に出ることもそうつらいと思わなくなりました。みなさんの親切さ、そのことは、思い出としてではなく、心の中に入れて帰国します。

JICAの皆さん、大好きな先生方、色々とどうもありがとう。

ブラジル国パラー州
コッケイロ日本語学校
北　川　小百合

１．当初、研修に期待したこと

・二世日本語教師の私達に外国語としての日本語教育の指導方法

・自分の日本語能力のレベルアップ

・日本の勝れた教育文化を身に付ける事

・幼児に関する日本語指導

－文字指導について

－会話指導について

－音楽指導について

－ゲームやレクリエーション指導について

・日本人とのふれ合い（体験する事）

・日本人の心を理解する事

・いろいろな学校で授業参観する事（日本人と外国人を対象とした日本語教育）

・玉川学園の全人教育を身に付ける事

・日本の四季の移り変わりを実際に体験する事

・ジェスチャーを使用した日本語指導

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

今回第４回日本語教師本邦研修生として日本で研修を受ける事ができて、大変喜んでおります。

センター、又は玉川大学の講義は、自分自身の日本語力になったと思います。そして、日本語教師として、これから先、どのように活動すれば良いかを身に付ける事ができました。

帰国後、子供達に日本の歴史、伝統、習慣などを伝えたいと思います。

幼児に日本語を自然に覚えさせる方法は、やはり、授業を楽しくする事です。楽しい授業をする為には、いろいろなゲームやレクリェーションを取り入れる必要があると思います。このように授業を進めていくと、子供も自然に日本語の理解ができるでしょう。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

・日本語教師として、あまり経験のない人達のために、学校の授業参観を二学期にもできればもっと良いと思います。

・自己研究の発表の為にもう少しスピーチの授業があると良いと思います。

・レクリエーション指導や幼児教育の授業は、とても為になりました。でも、もう少し深く勉強したかったと思います。

・自己研修はとても勉強になりました。これから先も続けてほしいと考えています。

・この研修には音楽指導が必要だと思います。

・期間としては短かったと思います。

・Ａコースとの出会はとても良かったと思います。仲良くできて、とても勉強になりました。

・日本語教師本邦研修制度をいつまでも続けてほしいと思います。

・指導案、又は、カリキュラムの作り方をもう少し深く勉強できれば良かったと思います。

4．所　感

〈海外移住センターの講座について〉

・最初は授業を理解するのが大変でしたが、少しずつ自分自身の為の勉強になったと思います。

・優しい先生方の教える努力が、私の心に深く残りました。子供達の為、そして自分自信の為に与えられた講義を理解できるようになりました。

・センターで受けた授業は、自分の日本語レベルアップができたと思います。そして、もう少し深く勉強できればいいという科目もありました。
・今回のように1年間、センターで専門の先生方から日本語教育の勉強をさせて頂き、本当に良かったと思います。

〈玉川大学の講義について〉

・二学期は、玉川大学で聴校生として授業を受けましたが、最初は大変難しくて、とても不安な気持ちでいっぱいでした。でも、通学しながら、少しずつ理解ができるようになりました。
・玉川大学での講座は、どの科目も意義のある内容があったと思います。そして、これから日本語教師になる皆さんには、大変勉強になったことでしょう。
・研修を受ける事ができてとても参考になりました。帰国後は、日本で学んだ事を、子供達のレベルに合わせて、日本語を伝えたいと思います。

〈海外移住センターの生活について〉

1年間母国を離れ、昨年の4月10日から日本での新しい生活が始まりました。

全く知らなかった人々が同じ目的でセンターに集って来ました。そして、あっという間に過ぎてしまった月日をふり返ってみると、沢山の思い出が残りました。

センターでの生活は便利でとても良かったと思います。

でも、この1年間ここで勉強した中で私にとって一番心に残った事は、センターでの「出会い」でした。センターの親切な皆様、優しい先生方、子弟研修生、Aコース、移住者、開発青年の皆様、そして、同じBコースの皆さんとの出会いは「一期一会」だと思います。この出会いを大切にし、日本語教師の歩む道を頑張り続けたいと思います。

最後に、国際協力事業団はじめ、多くの方々のお世話になり、日本語教師としての研修の機会を与えて頂きました事に、心から感謝とお礼を申し上げます。

サン・パウロ
アリアンサ日伯学習館
小　坪　美代子

1．当初、研修に期待したこと

・日本語能力の確認とレベルアップ
・日本語を外国語として、その教授法、指導法等
・指導案または、カリキュラムの作成等
・日本語を文法的に学ぶ
・文法パターン等

・音声・発音・アクセント等
・幼児に対しての教材・教授法等

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

日本で学んだことや感じたことを他の人々にも伝えたいと思います。そのため、研修を生かすために、帰国後、日本語教育に精を出してがんばりたいと思っております。

義務とか、無理やりに学んでいるのではなく、自分が好きだと思うから学んでいると生徒が思ってくれるようになったらと願って、がんばってみます。日本語（外国語に当る）を学ぶ嬉しさ、楽しさ等を味わってほしいものです。難しいと思い込んだらよけい難しくなるものでしょう。

このような日本語学習を目指して、日本語教師として活動したいと思っております。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

センターで
・見学を余り重ねない方が望しい。
・復習の時間を、又は、予習の時間等設けてほしい。
・早くから、自己研究テーマを決め、そして担当者も決める。
・科目をもっとしぼる。

玉川大学で
・1年間を通して続けられる講義
・直接関係のありそうな講義（もっと）
・最初から自由に図書館を使えるように

4．所　感

日本に来てさまざまなことを学び、ほんとうによかったと思います。心から感謝いたしております。

海外移住センターそして玉川大学で素晴らしい先生方に教わり、非常にお世話になりました。ありがとうございました。

センターの皆様にも大変お世話になりました。私達を温かく迎えてくださり、そして、いつもかわらぬ親切さでほんとうにまことにありがたく思っております。特に江崎さん、私達を娘のように優しくしてくれて深く深くお礼を申し上げます。

日本…この1年間の研修は忘れ得ぬ思い出になります。このチャンスを与えてくださった国際協力事業団に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

ブラジル国サン・パウロ州
バルゼン・グランデ日本語学校
田　中　マ　リ

1、当初、研修に期待したこと

－日本語教師として、視野を広めて、日本を知る

－研修生活で、出来るだけ数多くの経験をする

－日本で生活した日々を身に付けて、自分の物にする

－このチャンスを有意義に過す

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

1年間日本で勉強させて頂き、全てはちょっと無理であるかも知れませんが、私が身に付け、自分のものにしたことを、ブラジルで私に期待をしている人々に日本語教師としても伝えながら生かしたいと思います。

帰国後、私に期待している子供達、人々の為に、バルゼン・グランデ日本語学校で、日本語教師として仕事をしたいです。

これからも日本語教師として、数多くの人々に日本語を学んで欲しいと望んでいるし、伝えたいとも思っています。教えて行くとともに、お互いに新しいものを学びつかみ続けたいです。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

－実際に外国人に日本語を教えている先生方からの授業をもっと多くしてくれれば良いと思います。
その授業参観も同じく増してほしいと思います。

－1年間を通して授業参観があればありがたい。

－自分達で授業が出来る時間もあれば良いと思います。

－玉川大学には1年間通うので、つながりが切れないように望みます。

4．所　　感

私を1年間も日本で何の不自由も無しに生活させ、一番重要な日本語教師としての勉強をさせてくれて、心からありがたく思っています。

家を出たことも無く、ましてや、外国へ来たことも無かった私でした。一番来たいと望んでいた日本へ来れて、私は運の良い子だと思っています。身内、特に両親と遠く離れて、1年間も自分では出来ないと思っていたことまで出来ました。

1年間もいろんな事をやり、見、又教師として勉強もさせてくれて、何もかも大変為になる勉強

でした。教師としても新しいものの見方、方法の考え方もいろいろと教えてくれました。

自己研修には、教師は相手の気持ちを理解することが重要な点であると書きましたが、実際にそれを生かそうとすることは、思うよりどんなに難しいことなのか……。でもその難しさを経験しながら、教師として、又は人間として、強くなっていくのではないかと思います。

長いようで、短い1年間でしたが、いろんな勉強、経験をさせて頂いて、私は一人の人間として、又一人の教師として、非常に重要な段階を上がり、又は前進したと思っています。

ブラジル国パラナ州
だるま塾
安　江　洋　子

1．当初、研修に期待したこと

1．自分自身の日本語の知識を高める（漢字、会話、文章表現力）

2．日本語を外国語として教える場合の教授法を学ぶこと（教材研究・学校見学）

3．日本の伝統的芸能を習得すること

4．遊びを通して、日本語を楽しく習得させるための、レクリェーション、ゲーム等の指導法を学ぶこと

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

現在、日本は世界中に名を知られ、世界各国の人々が日本語を学ぶために努力している。

ブラジルでも同じく、全国のブラジル人が日本に関心を持ち、日本語を学ぼうとしている。そこで私は一人の教師として、自分が身に付けた日本語、日本文化、その他すべての日本に関することを伝える重大な役目がある。

この1年間の研究を得て、玉川学園とセンター内で行われた授業を参考にして、帰国後、数多くの日系人や現地のブラジル人に教えるつもりです。

子供の心や気持等を理解できるような教師になり、日本語を楽しく教えたい。

子供達、あるいは成人に研修で学んだ教授法、自己研究で作成した教材等を生かしながら、無理なく、自然に日本語に興味を持たせるような指導をしていきたい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

- 日本語教師としての経験が浅い、又は、私のように全く経験がない方達に、この素晴らしい研修を受けさせて頂ければ非常に良い勉強になると思います。
- 自己研修の個人指導を6月頃から始めて下されば、もっともっと効果的な論文ができたのではな

いかと思う。最初の頃は、どのようにして進めれば良いのかわからないため、月に１～２回の指導があればありがたいと思う。

４．所　感

１年間の本邦研修が終り、日本を後にする日が近付いてきた。

- この１年は、私達一人一人にとって、非常に貴重な、掛け替えのない日本での経験ができたと思う。
- 玉川大学やセンター内での授業で自分自身の知識を高めることができ、自分にとって何よりの宝だと思う。
- 教室内だけの日本語の勉強だけではなく、日本人との出会、センター内での協同生活、日本の文化、歴史等に接することができ、いろいろいと社会勉強もできた。四季の移り変わりによる自然の美しさを肌で感じることができ、自然と日本人の生活が深いかかわりを持ち、何千年も素晴らしい日本文化をささえてきたことに気付いた。
- 日本語を教える立場になっていた私達は、生徒達に自信を持って指導できないと思い、不安な気持ちでいっぱいでした。国際協力事業団のおかげで、この素晴らしい研修に恵まれた。この１年を振り返って見ると、嬉しいことや辛いこと等、いろいろと体験してきましたが、すべてがプラスになった。この研修は、私達にとって言葉で言い表わせないほど大切である。なぜかと言うと、日本語教師の道を選んだ私に大きな自信を与えて下さった上、人生の勉強にもなり、一人の人間として成長させて下さった。このことは一生忘れることはできません。
- 国際協力事業団の皆様を始め、玉川大学の皆様、諸先生方、この１年間、たいへん御世話になり、心から御礼申し上げます。

　ありがとうございました。

ブラジル国リオ・グランデ・ド・スール州

イボチ日本語学校

上田　弥生　ロザーネ

１．当初、研修に期待したこと

- 日本語の正しい効果的な指導方法
- 日本の文化、習慣など実際に身に付けること
- 日本語のレベルアップ（会話と漢字を重に）
- 日本の歴史的な所を見学すること
- 日本の伝統的なものを学ぶこと：茶道、書道、華道

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

帰国後、日本語教師としてだけではなく、自分自身で日本語の知識を高かめ、実力と自信いっぱいで学ぶことと教えることを同時にやっていきたい。

玉川大学で学んだ事、リトミック、音楽、手遊びを多く取り入れて、自然に日本語を生徒達に伝えていきたい。さまざまな先生方から教わった指導方法を選択し、帰国して実際に利用したい。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

日本の文化的なもの（書道、華道、茶道）が続くように望んでいる。伝統的なものですので、とても大切だと思っています。

日本語を話せる日系人の大部分は、家庭で覚えた日本語を利用しているため、文法的、基本的な授業を4月からやって下さると良いと思う。3ヶ月後には効果的に利用されると思う。

ホームスティを何度かできる機会を作って、実際に日本の家庭の中で体験することをふやしてほしい。音楽とリトミックの授業を増やし、曲だけにこだわらず、楽器の基礎的な使用を学ぶことを願います。

4．所　感

日本に来られたのは、国際協力事業団のおかげです。色々とこの1年間に学んで身につけた日本語の知識は、センター内と玉川大学の先生方のおかげです。

日本に来て、日本の伝統的な文化とふれあうことは夢のように感じた。

JICAの職員、先生方と、センター内の友人に私の感謝の気持ちを申し上げます。

帰国後、ぜったいにこの1年間学んだことを生かし、日本人のほこりを守りながら、日本語を伝えて行くことにせいいっぱいの努力をする。

ブラジル国・バイア州
イツベラ日本語学校
竹村　エレナ　和

1．当初、研修に期待したこと

- 日本文化を少しでも学ぶ事
- 私の日本語のレベルアップ
- 日本人の心を少しでも理解する事
- 日本にしかない物を見る事を期待して来ました。

2．今後の日本語教育活動への抱負（研修の生かし方等）

日本語をもっと多くの人へ伝え、二世、三世や四世に自分のルーツをもっと大事にするように、色々な知識を学習者に自分自身も勉強をしながら教えていくつもりだ。

3．今後の現地日本語教師本邦研修制度に対する提言要望事項

もう少し長い期間研修をする事ができれば、もっと多くの物事を学べるのではないかと思う。

4、所　感

自分との戦い。その戦いも、皆様の力をかりたからこそだ。今後、帰国しても、皆から借りた力を精いっぱいのばすつもりだ。

研 修 日 誌

Ａコース（３ケ月コース）

9月25日　金曜日　晴れ　丸岡邦子

9月23日、ベレン時間午前2時、やっと3ヶ月間留守の段取りも終わり、数時間ウトウトしたのもつかの間、5時、空港に向けて家を出る。

ベレンから、もう一人研修に行く桜井さんはもう来ており、皆に見送られ、7時、予定通りベレンを出発した。

太陽と緑の大地と言われている通り、まさしく空から見るアマゾンは雄大である。その中を、アマゾン川が蛇行しながら、ゆっくりと流れていく。

しかし、実際、アマゾン川の流れは非常に速く、草のかたまりや流木などがたえず流れてくる。上流の方では、時々、島ぐらいの大きな草木が流れて行き、とても信じられない光景を見ることがある。

10時30分、リオ到着。出発まで従妹の家に行く。

23時、いよいよブラジル出国である。

まわりを見回しても知る人が居ず、無事日本まで行き着く事が出来るだろうかと、多少不安な気持ちが入り混じる。

途中リマを通り、ロスで約1時間、給油の為休む。この待合所で、やっとサンパウロ、ブラジリア、他の研修生と出会う。

9月25日、2時26分、成田に到着。やっと日本に着いたという実感が、胸に込み上げて来た。

税関を無事通過し、ＪＩＣＡの方が、ボリビアの方と私と共に、外で待つように指示した。ところが約30分待っても誰も出て来ない。様子を見に中に入って行くと、誰もいないと言う。置いて行かれたのではないかと、又々不安がおしよせてくる。さすがに日本人ばかりで、この時程日本人の顔が邪魔に思えた事はない。

しばらくして、中で集合との事で、又々、重い荷物を車で押して中に入る。

16時、全員揃い、成田からバスに乗り、海外移住センターに無事到着したのは18時である。

1年コースの研修生に迎えられ、センターのロビーにて所長さんの挨拶を頂く。今回の研修を受けるにあたり、皆それぞれ、学習指導力の向上、指導技術の修得、新しい知識の修得など、その他、大きな期待と、色々な諸問題の解決の糸口を見つけようと、皆やる気充分で、旅の疲れなど微塵も伺えない。

ひさしぶりに、ゆっくりと夕食を頂き、風呂に入り、早めに就寝した。

9月26日　土曜日　雨　桜井二二子

いままで、機内でゆっくり休めなかったのですが、昨晩は手足をのばし、ゆっくり床の上で休ませていただきました。

午前10時から、4階の第1講義室に於いて、オリエンテーションが開かれました。

江崎参事より、移住センターを利用させていただく為の細かな申し合わせ事項、総合口座通帳等の説明を聞きました。川端課長より、出身地研修について説明をしていただきました。

終了後、昼食をいただき、午後から自由行動となりました。

三分一　貴美子

9月28日　月曜日　曇り時々小雨

昨、日曜日は、各々に休日を思いのままに過ごした事を、いろいろと聞かせて頂く。

本日はＪＩＣＡ本部表敬訪問、入所式、カントリーレポートのプログラムでした。

9時20分、ロビーに全員集合、川端課長より傘持参の注意あり。一同出発。

・ＪＩＣＡ本部表敬訪問

新宿三井ビル54Ｆメヌエット（レストラン）を会場に、下記の通り行われました。

1．細川移住事業部長の歓迎挨拶

2．小林外務省移住課担当事務官挨拶

3．本部職員紹介

4．研修生自己紹介、20名

昼食懇談会に移り、研修生の間に本部職員の方々が入り、和気あいあいとした昼食会でありました。

1時頃三井ビルを出て、川端課長が御好意でヨドバシカメラへ案内して下さいました。自由行動を1時間として、2時半に集合することになりました。ところが研修生が一人見えなくなり、皆でさがし、20分程待ちましたがわからず、後の予定もあることなので、3時10分前に一路センター向け出発しました。

途中混雑もあり、グループがいくつにも分かれてしまいましたが、4時10分過ぎにはセンターに着きました。心配しておりました研修生はすでに帰っておりましたので、皆は驚き、かつ安心しました。少し休憩した後、4時半、4階講堂に集合しました。

・入所式

1．開会の辞

2．研修生紹介

3．所長挨拶

4．職員紹介

5．閉会の辞

所長挨拶要旨

本部研修生へのねぎらいの言葉を述べられ、日語教師への要望、①能力向上②日本事情の確認、殊に二世の見る目の確認③日本文化の把握、再確認④共同体の中から、快適な生活を生み出す努力をし、研修目的の遂行に臨むこと……等を細かく御指示下さいまして、大変有り難く胸にきざみました。

終了後、第一講義室に移りました。

・カントリーレポート

所長、川端課長、浅津担当職員の臨席のもとに行われました。名簿順に3、4分程度のスピーチ（学校概要等）の発表がありました。主な発言は次の通りです。

①複式授業の指導上の留意点

②学習意欲の持たせ方

③作文指導について

④漢字　〃

⑤外国語としての日語教育に対する切りかえ

一通り各自の発言が終わったところで、研修制度、事業団に対する要望の件について、またまた活発な意見が出ました。

・Bコース研修生の大学卒の枠をゆるやかにして、二世教師の引き上げにはげみを持たすこと

・一世教師の限界、二世教師の養成についての説明

⑥所長答弁

現行制度は4回目に入り、当初の施策としては、二世教師の質的面において、より高いレベルを望むことにより大卒としたためで、今後は上記の発言により、ケースバイケースとして、師範卒、経験年数などを考慮する、ここで現制度の見直しをする、以上、活発な意見が出ましたが、6時になりましたので終了となりました。

引き続き、研修生一同反省会をすることになりました。

△反省点…団体行動の乱れにより、各自慎重を期すこと（連絡係）

△向上努力…勉強会を発足させることで皆の賛成を得る。

内容・玉川大学並びにセンターでの学習内容の確認及び、意見交換、司会は水落、川辺両氏。

本日は各々にとって有意義な一日だったと思います。団体行動につきましては，川端課長には大変な心痛であったと推察しております。一同にかわりましてお詫び申し上げます。

明日に向かって、又頑張り、研修成果を大きく望みながら、感謝と共にペンを置かせて頂きます。

9月29日　火曜日　晴れのち曇り　遠藤澄江

到着以来、雨や曇りの日が続きましたが、今日は青空を目にし、先行良好の感を持ちながら、予定である玉川学園大学でのオリエンテーションを受けに出かけました。

9時45分、移住センターからAコース20名、Bコース12名共々、川端課長の引率のもとに、根岸線、横浜線、小田急線を乗り換えて、11時30分に玉川学園に着きました。

昼食を学生食堂で取ったあと、短大校舎でオリエンテーションが約1時間ありました。

○玉川大学オリエンテーション

国際協力室、小原室長の挨拶

1．Aコース、Bコースは共通授業で行なうこと。

2．プログラム、時間割などについての疑問点は、そのままにせず、お互いに理解できるまで話し合うこと。（自己解釈に陥らないこと）

長野先生

1．3ヶ月間の日程と時間割プログラムの説明

2．講義内容の概略の説明

ア．講義は根岸の移住センターと玉川学園とで行うが、玉川学園ではこの場所でしか出来ないものを主に行う方針。

（総合大学で、幼稚、小学、中学の授業の参観をする）

イ．講義内容などについての質問は、放課後に受けつける。

3．時間割以外のあいている時間は、授業の邪魔にならないなら学園内で自由行動をしても良いこと。

4．3ヶ月間中の玉川学園での学校行事についての説明

5．学園内での諸問題は、短大3階に在る国際協力室の桑原さん、大貫さんに相談すること。

TEL 0427-28-3205

6．注意事項

ア．急な環境変化のため、健康に注意すること。

イ．Aコース、Bコースの間には、講義内容の理解力の差があるが、仲良く勉強してほしい。

ウ．授業を受ける際、開始10分前に席に着くようにすること。

いろいろな説明を受けた後、学園内の案内がある予定でしたが、雨が降っていたために中止となりました。

Aコース、Bコース共通の講義を受けることは、ある面で教授側にとっては、重複式授業の実践ではないかと思われます。私は生徒の立場になって授業を受けるので、この中から何らかの重複授業の鍵が摑めそうに思います。

追記

7．宿題　期日10月2日

ア．3ヶ月間で特に勉強したいことを、詳しく書いて提出のこと。

イ．「日本神話」についてのアンケートを、提出のこと。

9月30日　水曜日　雨のち曇り　川辺重信

9月最終日、今夕の研修Aコースの歓迎パーティーのほろ酔い機嫌で、この日記を書き始める。朝

からの雨も今はやみ、静かな夜となった。今日は外歩きがなかったので、雨も気にならなかったが、この頃毎日雨天となり、傘を買いたすのにおおわらわとなった。

それでも、朝の10時には、外国人登録を受けなければならない。二世3人と私、帰化人は、川端課長の引率で、磯子の区役所まで出かけた。小雨の中に風も混じり靴をぬらしながら区役所に着き、無事外人登録を終える。

他の16人はセンター内で住民登録を終へ、後、玉川大学で頂いた宿題二つと、センターへのカントリーレポートの記入を行なった。

・お知らせ　土曜日のハトバス東京見学は、8時15分に、ロビー集合のこと。

昼食後、移住センター所長の講話があり、13時に4階教室に全員集合された。講話内容は、

1．事業団業務の説明、パンフレット3枚を渡し説明する。

2．研修生としての心構え

・教師は外国語として教えなければならない時期に来たので大変である。
・移民減少のため新しい教師は望めない。そのため現在おる外国帯在者に希望をつなぐ。
・日本国より頂いた税金を無にしないようがんばっていただく。
・朗りは日本人である事を頭に入れ、2世であってもほこりをもって行動してもらいたい。
・日本人は国際社会に貢献出来るものと考えられているので、日本人意識をかえてもらいたい。
・各国は教師が集まっていますので、各国の文化を披露して頂き、日本との文化の相互交流をしてもらいたい。
・日本は過去の悠長さがなくなった。また、「花金族」といった造語が出来たり消えたりしている。話し言葉が全体に早口になっている。など、日本の欠点も多少見えますが、それは知識として見ていてもらいたい。
・反面、旅行などを通して日本の古き文化などをたずね、良さも見て頂き、日本を再認識していただきたいと思います。

3．移住センター内での行動について

・11月中頃、移住センターは、他の研修生や移住者で75人程合宿となりますので、多少不自由になりますが、皆様方が先頭に立って、楽しい快適な合宿が出来るようがんばってほしい。

規則

・門限10時、やむをえない場合は連絡をする。
・いつも静かに、騒音に気を付ける。
・宿舎をいつも清潔にする。
・他の研修生と楽しく交流する。
・全日程に耐えられるよう、健康に気をつける。
・最後に日本語の意義、目的をどこにおくか発表会で発表して頂く。

所長のにこやかな楽しい講話に皆やる気充分。力のみなぎる思いを感じた。

後、川端課長の日程説明があり、授業開始時に号令をかける人、並びに水当番など、早めに決定するよう要請される。研修後の日本滞在延期についても、1988年の1月5日頃まではいいだろうとのお話しを聞いて、延期される方はそのように心積もりが出来た様子。

10月1日　　木曜日　　曇り　　　　　　　　　　　　　　　　　　　菅　原　智恵子

今日は9時より第一講義室にて、団長、副団長、その他の選挙があり、次のとおりに決まりました。

団長－川辺重信

副団長－高田照子

〃　－三分一貴美子

号令係り－水落忠一

お花－ 318号室

お茶－ 205号室

お習字－ 209号室

講師水差し－ 318号室

授業後、講義室の掃除当番－部屋わりにする事。

その後、9時30分より12時30分まで丸山先生の講義がありました。（日本事情について）

まず　1－国土と人口について　のなかで

(1)位置、国土

(2)気候と自然災害

(3)人口

(4)の日本の人口問題については又来週講義して下さるとの事でした。

13時30分より16時30分まで日本語教授法について、斎藤先生の講義がありました。

初めに、昭和62年度日本語教育能力検定試験についての説明があり、その後出題範囲の説明に入りました。

1－1日本語の構造に関する体系的、具体的な知識

－日本語学

－概論

－音声

－語彙、意味

－文法、文体

－文字、表記

1－2その他日本語に関する知識

－言語生活

－日本史

2－日本事情（古典と文芸を含む）

3－言語学的知識、能力、言語学概論

－社会言語学

－対照言語学

－日本語学史、日本語教育史

4－日本語の教授に関する知識、能力

－教授法

－教育教材、教具論

－評価法

終わりに10月1日より12月10日までの予定案を頂きました。

16時40分より17時40分まで体育の時間（A、Bコース）

－リズム体操

－ストレッチ体操

－なわ跳び

AコースもBコースの若さに負けずに頑張っておられました。久しぶりの運動に、夕飯もおいしく頂き、今夜はぐっすり眠れる事と思います。

10月2日　　金曜日　　曇り後晴れ　　　　　　　　　　　　　　水落忠一

朝5時に起床、しかし雨が降っている。日本に着いてからまだ秋晴れが見えず、ちょっと重苦しい気持ちがつづいている。6時30分に朝食をとり、部屋に戻って、今日からの玉川大学での研修についての予定等の準備をする。丁度7時30分頃より雨が上がる。

研修生の初登校である。根岸駅8時36分の八王子行の電車に乗る。電車の中で25年程前の通勤を思いだす。あの頃の乗客はよく読書していたが、今は本当に僅か、どうした事か、又、スタイルとしては黒の靴が多く、これも流行の一つなのか、その様な事を思い浮かべながら町田駅に着く。今度はどうだ、人人人のアリの行列だ。そうして目的に向かっている。ただ黙々と。昔が懐かしく思い出された。

今日の研修

(1)11時30分より小学部での音楽教室、3年生雪組

各先生の自己紹介と合唱があり、楽しい1時間だった。

(2)午後1時より表現教育（教育方法）に対しての全人的理解、内から外への自己表現等の講義があった。又、来週からの勉強についての説明があった。（方先生）

特：表現教育の中で全人的理解

さまざまな単純な疑問のうち、情報に関するものには、知的教育、直接経験に関するものにはドラマが解決する。その例にしたがって研修生A、Bが、それぞれ二人一組になって、盲人と同じように目かくしをして実技をした各人（研修生）には、いろいろと感じた事がたくさんあったことだと思う。

(3)最後は幼稚部、木多先生より幼稚部についての説明

尚センターに6時頃帰着す。

10月3日　土曜日　晴　　高田照子

東京都内見学、はとバス33号、122号車に乗車

朝8時15分、ロビー集合、体育指導講師である榎本女史引率のもとにセンターを出発。

本日たどったスケジュールは次の通り。

東京駅（午前10：00）

↓

皇居前（35分間の見学）記念写真を撮る。

↓

日本橋、蔵前（江戸通り）－通過

↓

浅草観音と仲見世（50分間の見学）

各々買い物に余念がない。観音様を拝観した研修生は何人いたでしょうか。？

↓

銀座通り、日比谷　－通過

商店街の看板がやたらと目立った感じ。

↓

東京タワー、高さ 333m（60分間、昼食及び見学）

おいしい幕の内弁当をお吸い物付きでいただく。後，第1展望台（高さ 150m）までエレベーターで登る。コンクリートでうめつくされたような大都市の中で、皇居、明治神宮、靖国神社などの

緑の森は、ちょうど砂漠の中のオアシスを思わせる。この都市から、もしもこの森が姿を消すことがあったなら……と想像した。

↓

六本木、青山、原宿　　　―通過

外国大使館が居並び、高級商店街と草分け的アパートの並びをもつ青山と、商店街いっぱいに群がる若者の町原宿は、非常な対照を示していた。

↓

ＮＨＫ放送センター（30分間見学）

人気を呼んだテレビドラマの出来上がるまでの写真展示、及び、撮影所のセット、擬音のからくり、出演者が使った衣装の展示等、興味深かった。

↓

赤坂、国会前　　　　　―通過

騒音の真只中に建つ国会議事堂をはじめ、他の諸機関の灰色の建物。広大な土地をおもいっきり利用し、美しい庭園と共に、美しくそそり建っていたブラジリアの諸機関（官庁）の建物を思い出さずにはいられなかった。

↓

靖国神社（25分間見学）

私にとっては初めての参拝。

“お国の為に”と、命をかけた兵士達の霊園。

今朝もテレビで、８才の少女の殺人事件について放送されていた。自分の欲望の為に、他人の命を奪う事に抵抗を感じない人が増えた現代の日本で、およそ他人の為に、国の為に、命を捧げようとする人は何人いるでしょうか。？

ここは又、ここで祀られている方々の遺族の人々にとっては、父親との、あるいは兄弟との、そして夫との再会の場でもありましょう。

↓

東京駅（16時30分）解散

前日までの曇天をよそに、残暑を思わせる晴天のうちに、無事一日を過ごせた事はやはり感謝すべき事でした。

10月５日　　月曜日　　晴れ　　　　　　　　　　　　　　　　　長谷川　多喜子

８：40

短大 500号室にて、Ａ、Ｂ両コース共に、日本語教授法を受講。

講師—長野先生。

Aコース研修生に、名前を知りたいと申され、全員自己（学校）紹介、希望等述べる。

• 各国毎、A、B仲間同志、交流を持つようにと助言された。

• 教科書の紹介、石橋先生の紹介をなさる。

その後、これから学ぶ事に付いての説明がある。教育とは何か？

学　→←　術

原理（根拠／理由）　方法

法則　←　技術

本邦研修生の日語教師は、重要な分野を自覚するよう注意される。日本語教育の、南米における非常に大きな特色の一つは、日系人相手、もう一つは、相手が子供である事に留意し、みんなで技術を寄せ集め、方法を作っていく。これから次の様な要点に立ち返って、勉強するよう教えられた。

1．中南米日語教育の特徴に付いて、見つめ直す。

2．バランスのある研修

(1)日本語の知識をアップする。

(2)日本語の能力をアップする。

読む、聞く、書く、話す、の四技能を、豊かに使えているかどうかを、しっかり正しく、豊かに話せるかどうか。

教師自身が一番身近な教材といわれる。

(3)教える技能、能力を高める。

3．外国語としての日本語教育とはどういう事か

4．授業設計（指導計画、デザイン）の持ち方

5．教える（教授）技術、能力

6．複式授業を能率的にする。

7．視聴覚機器をどう使うか。

8．日本文化、伝統、中身は何なのか、日本人らしさについて、改めて勉強する。

宿題にカリキュラム作り、初級（日本語○の子）の指導目標のねらい。

PM1：00～　第三限　教育原理

短大401教室にて、石橋哲成先生の講義。御自分の名前の説明から中国の諺を引かれ、教育についの説明に入る。

哲夫	知	博識	創造知識
成城	徳		意志の強さ

哲婦　　　体　　　体力を考えなおす

破国

教育に付いて広瀬淡窓先生や、インドのタゴールの例文で示され分かり易かった。

教育の二つの作用

・伝達作用　　　無知…知

・助成作用　　　無……有

教育はこの二つの作用が働く物である。そこには分離と合一そのままの、そして人対人で無くてはならない作用である。教育を広く考えた場合の人間形成には、遺伝的要因と環境的要因に依って、いろいろ変わる。

遺伝的要因…インターラクション（相互作用）

環境的要因
- 1 自然的環境（自然風土）
- 2 社会的環境（時代に依って違う）
- 3 文化的 〃 （言葉、宗教、道徳観）
- 4 人間的 〃 （無意図的）――――― 無意図的接触／意図的

PM 7 : 30

華道　清和古流（竹内先生）佼　斉一千師

今日、華道の時間が7回あると、川端氏より紹介があった。

花材…金方樹、菊、ダリア

水揚げ、細い枝で立たない時は、外の太い茎で根元を押さえる。あじさい、ダリア、バラ等、お湯で水揚げ。活けた後、一鉢一鉢丁寧に指導して下さる。見事に変わっていく様は、見ていても面白い。講師から初めてと思えないと批評され、後6回頑張るようにとの事。有意義な1日でした。

10月6日　　火曜日　　雨　　　　　　　　　　宮　崎　勝　代

大雨の中、9時45分、短大前に集合し、長野先生の案内で中学部に向かう。途中いろいろと説明がある。工学部の前に「慧眼見真」「神なき知育は知恵ある悪魔を作る」と、二つの言葉がきざまれていた。人間は宗教がなければ教育ができないと教えて下さった。

第一限　中学部

・中学部長、井沼先生、担当教師、坂井、山田先生の紹介

・注意事項

　・研修生では、中学部は初めてである。

　・10月10日の体育祭の練習のため、授業形態の入れ換えがあり、英語の実習はなくオリエンテー

ションに変わる。

・9時45分に授業開始なので、時間までに4階の教室に入る事。

・教科形態の説明

(1)自習教室番号、坂井先生（401号）山田先生（403号）

(2)58年度に新校舎に移る。その他校舎の説明

(3)教科によってクラスが変わる（生徒が移動）

(4)学力別クラス編成をしている。（数学、英語）

(5)外国人教師指導もある。（英語）

(6)その他、教育、日課表、自由研究、体育、学校行事委員会の説明あり

・校内案内

音楽室、礼拝堂、学習棟、国語教室、数学教室、英語教室、その他

第二限　幼稚部　高橋先生

・幼稚部の歴史的移り変わり

1929年、小原国芳先生が42歳で創立する。

・幼稚部の沿革がくわしく説明された。

第三限　日本神話　平山忠義先生

・テキスト、新訂「古事記」をいただく。

・日本の神話で大事なことは、話をすることである。

・日本語の教育でも話をしてあげることが大事

・人間の言葉の問題で大事なのは、母親から語りかける事である。

・日本神話認識度調査、グラフの説明

・前アンケート用紙に（いつ、何で）書き入れてくる事

・イザナギノミコトとイザナミノミコトの国産みの話を通して、文学とは、人間にとって楽しく、美しく描かれ、人間の生き方の基本（人間とはどういうふうに生きていかなければいけないか）を説き、それを読んだなら日本民族の心が理解できるように、との話があった。とても印象深かった。

第四限　紙座　小川先生

・つるの基本折り

(1)一色だけのつる

(2)頭前体との色違い

(3)頭首と後体の色違い

(4)頭と体の色違い

・1枚の折った紙4枚をならべる。（30種類以上できる）

・色を重ねて折った紙を平面にならべる。折り方によってたくさんのつるが出来たのでびっくりする。

夜間の部　書道　神山昭子先生

・使う道具の説明

・姿勢と執筆

・用筆と運筆

・書体、字体、書風

（以上くわしく教えていただき「みなさん、やっていないわりにはとても良くできた。」と、ほめていただきました。）

10月7日　水曜日　曇り　　五木田　洋　子

10：45

短大 402号室にて、A、B両コース共に橋本先生を迎えた。先生の講義は、研修生はどうあるべきかという事であった。

玉川大学での研修、日本での生活体験、海外移住センター内で学んだ事は、各々が、それぞれの国へ帰り、その地域に合わせ消化する事。又、そのように努力する事。

学んだ事を、本邦研修に参加できなかった先生方に伝える義務があるという事をおっしゃった。5部もパンフレットが用意されていた。

・教師論 ——→教師とは常に前向きで、常に努力し、マンネリ化してはいけない。

・ブラジルの日本語教育事情 ——→教師の社会的地位の向上、教師の待遇改善、後継教師の養成等…

・教育事情裏話

・日本語普及センター情報（パンフレットのみ、後に講読すべき物としてくばられたと思う。）

・在外の日本語教育を共に語り考える会——→これは午後から討論方式で行う。

13：00

三分一さん議長、遠藤さん書記。

テーマ①　日本語教育の認識を高めるために

・父兄との交流を綿密にする。　ベレン

・授業参観と懇談会、父母会、学校行事をふやす。　パラグアイ

・教育機器で、父兄啓蒙　ミナス

・全課目を日本語で　ボリビア

・普及センターより講師の派遣　サンパウロ

テーマ②　後継教師

後継者数　既　8名

〃　なし　6名

条件次第

条件として

・国の社会保障制度　　・教師としての給料

後継者側から

・教師養成の機会を与える（現職教師が指導）

・指導法の具体化

・各地域での助手制度

テーマ③　重複式の指導案

複式授業の一斉化

指導案の立て方などは宿題として残る。

三分一さんの誘導でスムーズに運び、終わった後短大前で橋本先生、長野先生を囲んで写真をとり、サンパウロ、又は各地で再会できることを願って別れる。

14：40

林先生の折紙の授業

三冊の本と折紙を二種類頂く。この本は保母の検定試験に使われているものだそうだ。

先生がおっしゃるには、人前でひとつ折紙を折って見せるためには、簡単なもので最低30回、むずかしいものでは 100回～ 200回練習をしておかねば、見せられるものは作れないとの事。

・仲よし折紙とは、隣同志仲よく教え合って折る事をいう。

・折紙にはまちがいはない。なぜならば、まちがっても、それはすでに新しい折紙になっている。

・折紙は、楽しみを与えるという気持ちで教える事。

などと、おっしゃった。

・ちょうちょう　５種類　・ばった　４種類　・犬の顔　２種類　・犬の体　２種類　を楽しく、ほんとうに遊びながら学んだ。

私の大好きな分野なので、時間のたつのも忘れ、あっという間に授業は終わってしまった。

16：00

国際部の隣の部屋で、小原学長から体に気をつけるようにとのねぎらいの言葉を頂いた。

日本語教育にあたっては、一人ひとりがその地域に合った方法をえらび、日本人を育てるのではなく、その国の子供達、又は、日系人達に、日本の良い面、日本人の心、そして日本の文化などをそれぞれの国に帰って伝承し、国と国との掛け橋になるようにとおっしゃった。

とてもやさしく、おだやかなお人がらに見うけられました。

知りたい事、わからない事などは何でも長野先生にお聞きし、教材なども必要な物があれば、どんどん申し出るようにとのあたたかいお言葉でした。ユーモアをまじえながら、皆の気持ちをときほぐすようにお話をなされた。

わずかな短い時間ではありましたが、心なごむひとときを過ごさせて頂きました。

19：30

表千家のお茶の作法がありました。

石井先生よりふくささばきと、お菓子、お茶を頂く時の礼儀作法を教わりました。初めての抹茶は甘いお菓子の後であったからか、とてもおいしかった。

今日までをふりかえり、電車の中のことを思いかえしながらこれを書いています。私の思っていた夢のような日本とは違ったけれど、このような機会を与えて下さった事業団の皆様に、感謝でいっぱいです。

10月8日　木曜日　晴れ　野口民恵

昨日までの曇天はどこへやら、今日は朝から秋晴れ（というのだろう）の良い天気です。

朝早く（といっても、9時前という時間は決して早くはないのだけれど、その前は開店にならないので）銀行で初めてキャッシュカードを使ってお金を引き出しました。金額通り出て来るのは当たり前ですが、何だか不思議…といった感じでした。サンパウロにもあるのですが、何か信用出来なくて、利用した事はなかったのでしたが、今度は利用してみようと思いました。

今日は木曜日なので、玉川ではなくセンターですので、朝もゆっくりできてごきげんでした。

午前中は斎藤先生の日本語教授法、A、Bコース合同で4階の講堂で行われました。

- 言語学、日本語学について
- 語の借用とは
- 方言と共通語
- 文法

午後には、丸山先生の講義による日本事情

- 日本の人口問題
- 国民性について
- 日本の環境問題

などについて先生は冗談も交えて、楽しく面白く講義をされたので、皆居眠りも忘れて一生懸命講義を受け、3時間がすごく早く過ぎたのにびっくりもし、もう少し続けてほしいと心残りでした。

続いて体育でした。今日は体力診断があり、

・垂直とび　・反復横とび　・背筋力　・握力　・伏臥上体そらし　・立体体前屈

などの測定が、ありました。

夕食後、4階の教室で勉強会を持つ。

勉強会の心得

1. 他人の意見の尊重
2. 前向きの姿勢

3．要点をまとめて発表

4．後継者に残せるもの

5．帰国後役立つもの

6．感想発表のこと

7．講義内容の再検討

ということで、以下皆の各講義についての発言。

日本事情　丸山先生　10月1日

・現在の日本の中に過去の出来事をおり交ぜて面白く講義をされた。

・地図を見せて細かく説明して下さったのでよくわかった。

・あきのこない講義であった。

・日本再確認

・日本の特徴がよく分かった。

・人口密度などの調査がよくできていた。

音楽　長島先生

・明るくていいと思うが、程度が高いので同じにはできない。

・ふんいきがいい。

・生徒個人で作詩作曲をしているのがいい。

・積極的に発言する。

・音楽だけで独立していない。

・壁に標語が書かれていたのが良かった。

・音楽によるあいさつ

応用　例・動詞カード、歌を使ったものの使用

・授業を始める前に歌う

・かえ歌を作る

方先生　表現教育について　10月2日

・目かくしをした効果＝盲人の立場が体験できた

・相手の立場に立つ

・運動遊びを通しての教育

石橋先生　教育原理

・ほめる必要性がある

・存在価値

・厳父慈母

・場所的論理はとても良かった

華道

・男性にも教養として必要である

・自分の思った通り順調であった

・同じ花でも、活け方で感じが違う（教育も同じ）

・活け方を図で示してほしい

平山先生　古事記

・日本の文化のルーツを習いたい

・民族の心である

中学部

・教科別教室がある

・設備が良くて羨ましい

・教室等清潔であった（私達もきれいにしよう）

・個別指導をしているようだった（国語）

紙座　小川先生

・折紙をしてから紙座をしてほしい（低学年には無理）

・複式にも使われる

書道、神山先生

・書き方がよくなる

・書き順がわかる

・精神統一

・黒板に水書きで練習するといい

・おしゃべりをしない

橋本先生

・明日への資料を残すこと

・教育者の壁を破る。複式の指導法のヒントを与えてほしい

折紙、林先生

・小さい子に簡単に教えるので良い

小原学長のお話

・初対面だが暖かい心の人のようである

・国際的感覚の持ち主

・二世の人に分かり易く、話してでださった

・包容力のある人

茶道　石井先生

- 落ち着きがないようであった
- 茶室で教えて頂きたい

日本事情　丸山先生　10月8日

- 人口問題がよく分かった
- 子供がバカなのは親が悪い
- 過剰サービスについて

体育

- 楽しくできた（ストレス解消）
- 測定、とても良かった
- ストレッチャー体操が良かった（6時30分のラジオ体操をしよう）　　　以上

今日は一日息つく暇もない感じでしたが、でも色々と考えさせられる充実した一日でした。

選ばれたことへの責任と併せて、自己の向上の為にも、与えられたこの機会を十二分に活用し、有意義な研修としたいと願っています。

10月9日　　金曜日　　曇り　　　　　　　　　　　　　　　　　　川　崎　晴　美

朝6：30に私達Aコースのラジオ体操が始まりました。夕べの勉強会で決められた川辺団長の案で、私は大賛成です。朝から一つの心になって、体を鍛えるという日本人の習慣には、私はいつも感心して興味を持っていたからです。10分くらいでしたが私も背を伸ばし、胸には日本とブラジル両国のプライドを持ち、日本人の先生方と共に音楽に合わせて、気持ち良く体操をしました。なんだかこれで、父母の日本人としての生き方がもう少し分かったような気がして、今度こそこの良い習慣を自分の物として持って帰り、他の二世三世達にも、知らせてあげようと思いました。

12：40、短大の前で集合。国際部の桑原さんの引率で、中学部の前の玉川教育博物館へ足を運びました。学園内を歩くのはもう大分慣れていて、緑の街路樹を眺めながら楽しく急ぎ足で行き、13：00に博物館のロビーで酒井館長に迎えられて、色々と博物館についての説明を聞きました。5月にオープンされ、まだ玉川学園の生徒、父兄や関係者だけに開館され、研修生も私達が初めてだということです。

展示内容は、1．教育史資料2．美術資料3．考古資料4．シュヴァイツァー博士5．小原国芳先生関係資料で、教育史資料の中で目についたものは、"子供の遊びと玩具"とか、教育思想家たちの遺墨、編集者、教科書、教材教具でした。

美術資料としては、欧米の現代絵画と彫刻、日本の絵画と彫刻、アルベルト・ブーリの"広大な白"と"白と黒"と題した絵が私には印象的でした。

一番奥に特別重要資料としてキリスト教絵画があり、その解説には次のような事が書かれてあった。「玉川学園の教育理念の中でも重要な位置を占める宗教教育を実戦する上で、児童生徒学生たちに優れた宗教画を見せたい。」これを見て、玉川学園の理念が何であるかが分かったようでした。

すぐそばに“小原国芳、信夫妻の生涯”のテーマで、小原先生の使われた硯墨筆、書簡などの展示がありました。

2：00に見学を終わり、3：00より幼稚部の本多先生の講義を受けるために、短大の方へ戻りました。その途中に大運動場で大勢の生徒達が、明日の体育祭の用意をしていたのを見ました。園道を竹ぼうきで、先生が生徒と共に枯れ葉を掃いているのを見て感心しました。

本多先生の講義では、温かい効果的な幼児の扱い方について、簡単でも気の付かない細かい事を教わり、なるほどと何度もうなづきました。

帰りには、また電車で帰りました。何時何分発に間に合うようにと駅へ急ぐのにも、もう慣れました。初めて日本へ来たので不安だった私でしたが、今では皆さんに色々と助けて頂きながら、安心してこの研修が出来るように思われます。

10月10日　土曜日　薄曇　　佐藤隆

今日は体育の日で休日。

朝のラジオ体操の参加人数7人というのは、連休で昨夜夜更しをしたのか、或いは訪問先がそれぞれに多いためかもしれない。

玉川学園では第59回体育祭が9時30分より行われた。

薄曇りで、雨の心配はないとの天気予報は寸分の狂いもない。

今日明日と食堂は休みである。外食の不経済性を体験したものと思う。

どこにも出ずに一日中テレビを見る。体育の日に因んだ各地の運動会や、体育の催しを見て、ビデオテープに収めたいくらいであった。

一日中センター内にいたひがみでないけれど、55歳以上は週一回の運動が適量だと言う。又、一番運動しない世代は男女とも20代と報ずる。

因みに、今日一度も外出しなかった人数を受付で調べてみると、32人中たった1人である。

静かな移住センターの一日、日暮れも早くなった。

10月12日　月曜日　雨のち晴　　大城和子

体育祭の代休で玉川学園はお休み。

この休みを幸いとある小学校へ授業参加に行く。きのうあんなに晴れていた空があいにくの雨で、朝

の７時の電車はすしづめもいいところで、目的の場所へ着いた時はほっとした。

前に電話してあったので心よく学校を案内してもらった。

その小学校には特殊学級があり、知恵遅れ、発音の異常、どもり、声の異常、ことばの発達おくれ、脳性小児麻痺に伴う発音異常、その他、年令は４歳～13歳、約60名、脳性麻痺の重い生徒には先生がつききりで、いろんな方面から研究しながら指導している。又、その若い先生は大学に通学していると聞き、思わず胸があつくなった。父母もどんなにかたよりにしている事でしょう。頭が下がる思いでした。

連休も終わり、夕方頃になって出かけ先より皆帰り、センター内はにぎやかになりました。夜は生花、題名「自由花」、皆さんは思い思いに生けてお師匠気分でした。

材　料　　カーネーション

ミツマタ

しだ

10月13日　　火曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　横　畠　愛　子

○朝６時30分、ラジオ体操をする。

電車は大船で信号の故障のため約20分遅れ、各駅は大勢の乗客で一杯だった。その為車内はすし詰めの状態で、身動き一つ出来ない。初めての体験だった。

○午前９時45分、中学部 401号室　酒井先生の英語演習

電車の都合で中学校に遅れて到着すると、すでに授業は始まっていた。

Which is bigger this house or that one？

この家は、どちらが大きいですか。

（Which　比較級～or　～？）…等

（ＯＨＰ）

・オーバーヘッドプロジェクターという幻灯のような教材を使用していた。また比較教材として色々な縫いぐるみを使用している。（楽しそうな雰囲気がした。）

・英語会話をカセットテープで聞かせ、プリントの空間に単語を聞き取り記する授業もしていた。

○午前10時40分　幼稚園授業演習（自由に見せて頂く）

・きりん組やしか組等と、動物の名前で年令別に成っている。

・紙芝居やお折りカードをノートに張りつけたりしていた。

・先生は字は教えないが、次第に字が読めるようになっているという。（６歳しか組）

・お弁当は先生と共に庭に出て食べている。

○午後１時より、 203号室　日本神話　平山先生

授業の始まる前に、玉川学長よりＡ、Ｂコース一同に、玉川学園内の絵はがきを頂く。

古事記 P211 ～ P213 、神々の生成、八百万の神々

黄泉の国 P213 、異郷｝憧れ←→怖れ　イザナキの神｝神々を生む

他郷　　　　　　　　イザナミの神

三貴子P216、右眼－天照大神、左眼－月読の命、鼻－建速須佐の男の命

○午後２時40分　401号室　紙座　小川先生

冬－北－玄武

黒

虎－西－秋　白　銀　黄　青－東－竜

紫

赤 — 南 — 朱雀

◎モザイク模様をする。

画用紙に張ると、個人個人、

大変、色の組み合わせが、

良く出来た。

○午後７時30分　201号室　石井先生

和室で茶道の作法についてたたみの上の正座だけに、足が痛かった。

○午後９時30分、４階でワープロ使用方法を竹村さんに教えて頂く。希望者のみ。

10月14日　水曜日　晴　　　　　　　　　丸　山　みどり

６：30～ラジオ体操、すがすがしい朝だ。

９：40～長嶋先生の音楽の授業参観

ハローハローの元気な輪唱で授業が始まる。

やあ、こんにちは、ごきげんいかが！

歌いながら、みんな握手し合う。どの子の顔も明るい。本当に楽しそう。「ずいずいずっころばし」「もみじ」など、私たちも一緒に歌う。何だか小学校の頃を思いだして懐かしい。

その後、子供達自身が作詩、作曲した歌を歌う。「さわやかな森」と「アドベンチャー」、各クラスで音楽祭に歌うらしい。自分達で作曲できるなんて本当にすごい。私にはちょっと考えられない。それにみんな積極的で明るい子たち。

長嶋先生を見ていると、子供たちが音楽を好きになるってことがよく分かるような気がする。いつもニコニコ顔で子供達に接する先生が印象的だ。この音楽教室の明るさ、楽しさは、長島先生の笑顔が生み出すようにも感じられた。

13：00～長野先生の日本語特別指導

「子供達にいかにして意欲をもたせるか」これについて講義を受ける。

「皆さんはどのようなとき、意欲を持てますか。」この質問に「必要にせまられて」「ほめられたと

き」「自信が持てたとき」いろいろ返事が返ってくる。

「それでは、皆さんは生徒達に意欲が持てるような授業をしてますか。」

一同シーン。

「子供に意欲を持たせることこそ教育である。」

「子供をよく知ることこそ教育である。」

本当にすばらしい言葉だと思う。

「こりゃ、居眠りなんかしておれないぞ」辺りを伺うとみんなそんな表情である。私も目をこすって座りなおす。

「成績が優秀な先生というものは困ったものだ。それは、できない子供の気持ちを理解してやることができないから。」

この言葉に内心私は、「そうだそうだ、私は何をやってもビリだったから、出来ない子供の心だけはよくわかる。」なんて、変なことに満足。

もう一つ、「理解とは、愛の別名なり」（タゴールの言葉から）

「教育とは相手（子供）を知ること、その立場を理解すること。」（長野先生の言葉から）

つまり教育とは、愛することなり。

この他、授業の条件、授業をやっていく上での先生の条件など、いろいろ得るところの多い授業であった。

10月15日　木曜日　雨　　福島　知恵子　ローサ

日本に来て３週間になりました。やっと少しずつ色々な勝手が分かり始めました。今日は、日本事情、丸山先生の授業は休みでした。

朝５時30分から、百の言葉を書きます。

午前中はいろいろなお話がありました。午後は、日本語教授法、斎藤先生の勉強と音声の言葉がありました。懇親会があり、新しい研修生を歓迎しました。６時から始まり、８時過ぎまでみんな楽しそうでした。いまからみんなお友達になりましょう。

10月16日　金曜日　雨　　高野　知恵子

皆さん、雨の中を一斉に傘をひろげ、まるで戦争の出陣のごとく６時50分出発、７時の電車に乗り込み、今日はいつもの時間より早いのでゆっくり座って行けるものと思っていたのは夢、なんのことはない座る席もなく町田到着。一駅前から、降りる用意をしていたのにもかかわらず、乗る人におされ傘は手から離れ、今にも戸は閉まる寸前、勇気ある桜井さんの声で乗る人が道を開けてくれ、死ぬ

思いで降り、傘の行方はいかにと思いきや、戸口のところに人の後足で蹴られツツ…ツと出てきた。まるで硬貨を入れて品物がでてくるみたいで、急いで拾い電車の戸の閉まるのをホッとした気分でながめ、あわてて友人の後を追う。途中「キクナ」の駅の名があり、ホームの駅員のマイクからながれるキクナ、キクナの声を聞くと、今日の講義をキクナと言われているようで、玉川学園に着く前ぐらいの駅の名をキケー、キケーに変えたほうが全ての学生のためになるのではと、独言する。

さて、真面目に……

1時間目は8時45分、小学二年生椿組の算数の授業参観。時間があったので後の展示品をながめる。9月15日の敬老の日にちなみ描いたと思われるおじいちゃん、おばあちゃんの絵、のびのびとしたよく観察された絵に驚く。右壁にはられた「椿組のめあて」を読みつつ、各クラス（各組）にクラスの目標なるものをもっているのだなあと思い教卓のすみをのぞくと、「10月のめあて」なるものが目につく。いわく、

- きびきびした生活
- すばやく行動する
- 元気よく話す
- 落ち着いた食事
- 助け合う友達

1時間の授業を通し、これらの「めあて」なるものが確実に実践されていることを勉強できた。

13時、方先生による、表現教育

遊びの本源とは、表現教育とは、の説明講義を拝聴し、今日のテーマ（題）にはいる。

テーマ① よい雰囲気づくりのために

　　② 内的活動を活発にするために

この両テーマを老体にむちうち楽しく皆さん実技する。

最後の実技「天国旅行」、水落さんのグループの方達は、水落さんを天国旅行させたいのに、あまりの重さに「地獄旅行」に行かせるところを、さすが皆さん歯をくいしばり天国へ旅だたせたようで、水落さんさかんに恐縮していた。

14時40分 本多先生による児童言語

テーマ－劇的な活動

大変役に立つ講義と実技、ボリビアに帰ったらさっそく授業に取り入れようという意欲をもつ。ありがたいことである。

今日で丁度3週間、Aコースの皆さんの顔にも余裕が出て美しくなられ、電車に乗るたびに知らぬ人々の顔の生気のないのにくらべなんと人間らしい顔、顔、顔、センターに着きその方達の顔を見て安心し、一日を終わることができる。

皆さん一日一日を大切に生きましょう。よろしく……

10月17日　　土曜日　　晴れ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　間 庭 文 子

昨晩の天気予報によれば台風19号が四国に上陸し、今日は一日中大雨ということでしたが、見事にはずれて、風こそ強いがとても良い天気に恵まれた一日でした。台風は日本海沖に北上し、夜には青森辺で温帯性低気圧に変わってしまったとのことでした。

私はとても出席できませんが、例によって午前6時半のラジオ体操から今日一日は始まり、朝食後はそれぞれに来月の現地研修させて頂く学校へ連絡をとったり、先々週のはとバス旅行のレポートの総仕上げをしたり、たまってしまった洗濯を片づけアイロンをかけたりと雑用をし、午前11時より食堂において昼食の時間となる。

午前11時55分、ロビーに集合し、川端課長とともに高田馬場へ向けて、ある人はスーツケースを持って出発す。午後1時10分、高田馬場着。午後1時半、無事全員、税経ビル4階にある新宿日本語学校に着く。待つこと30分、続々と40余名の日本語教師志望の若い方、お年を召された方、男の方、女の方がいらして、部屋はまさに満杯の状態となって、いよいよ江副校長先生の登場です。

＊午後2時から午後3時まで、江副隆秀校長の日本語教授法講座

日本語圏にいる子供は、3，4才で基本文法を覚え切ってしまう。

1　主語がないからまわりの人の言葉を繰り返すことによって、会話が成立する。

2　ラテン系の言葉のように、人称によって動詞が変化をおこさないため、文法が非常に簡単である。

日本語を覚え易い人

1　韓国人…文型、言葉は非常に類似している

2　複合言語を持つ人…新しい言葉に拒否反応をおこさない

3　タミール、インド、バングラデッシュ、トルコ人

・2000語余りの基礎語（耳、鼻、口、等）が音韻変化などをおこして、原則にのっとって別れていく。その結果、陶汰された言語は大変簡素化されている。（例、英語）

・現在の日本では、増加しつつある留学生によって、いろいろの面で教育が変えられつつある。

・外国人（日本語を話さない人）に日本語を教えるには、いわゆる日本の文法は全く通用しない。

今年の1月には、ブラジルへ講演旅行に行かれたとのことで、すでに大半の方が顔なじみということもあり、かなり早いテンポで進んだ1時間でした。

＊午後3時15分から川端研修課長の御挨拶

これから日本語教師を目ざす方々に、現在すでに異国の地で日本語教師をしている私達の助けとなってくれるようにとの心強いお言葉。

＊続いて川辺団長の挨拶

未熟ながら精一杯頑張って、微力を注いでいる私達ですという挨拶

＊引き続き地域ごとの紹介

＊午後3時45分から午後6時40分迄江副隆秀校長の講演

・聖心、暁星、上智と平穏な学校生活の後、戦後中国から移って来た神父様達に日本語を教えるようになったのが、そもそも日本語教育にたずさわるようになったはじめだそうです。

人間の信ずるに足る幸福は、邂逅、開眼、信じ従うこと 一 亀井勝一郎

・新宿日本語学校は1975年、生徒4人教師8人で発足、現在 350人の生徒を持つ迄に発展を遂げられています。

・シンガポール、香港へ政府から派遣され、日本語の普及につとめられた。

1．日本語は日本語で教授されなければいけない。（直接法）

例．日本語でないと理解できない文化の教授

2．習った日本語を生活の手段として使用出来るまでに、昇華させなければいけない。

例．日本語で苦情が言える程に

3．日本的なしつけも理解し出来るように

例．起立、礼、お手洗いの使用法

4．それぞれのお国事情や、今おかれている学生の生活環境等を、教師はよく理解してあげなければいけない。

例．フランス人は自己主張が強い。アジア系はおとなしい。

親子とは思えない程にゆったりとした口調で、その対照の比の妙が興味深いところでした。とにかく、日本語教授は“忍耐”の一語に尽きるとのこと。

＊午後4時45分から午後5時半まで、江副校長による実際の日本語教師トレーニングを見学。

1．ビデオ等の視聴覚教材の使用

2．位置づけの確立を（自分むけ、相手むけ、過去、現在等）

3．反復することによって習慣づけてしまう

4．頭でなくて口で覚えさせる

＊午後5時35分から午後6時迄、中島透先生による日本語教師トレーニング

・基本動詞を十程覚えさせたあと、名詞を加えたり形容詞を加えたりして文をどんどん長くして、基本文型を植え込んでしまう。この時、名詞や動詞はあまりたくさん与えないように。

・名詞だけで教えないで、動詞との組にして教え込む。

・時制の導入

・学生の身体を使った授業にする。

・表記…毎日一番はじめに五分位ずつやっていく。

・授業にリズムをつけていく。

・はじめに教える発音やリズムは最重要なこと。

・複式授業においては、落ちこぼれ意識を持たせないようにくり返しくり返し指導する。

・教師から生徒に、その時点その時点、評価を与えていく。

＊午後６時10分

江副理事長、江副校長、中島先生、川端課長と共に記念撮影。水落さん、佐藤さんが見えず、川端課長が心配する。

そのあと、新宿日本語学校発行の本を買う人、通信教育の説明を聞く人で、事務室に午後６時半頃迄いる。帰る時には、中島先生がエレベーターの所で、私達の姿が見えなる迄お見送り下さる。

もっともっといろいろとお聞きしたいという声が多く、総体的に大好評な研修でありました。ますますもって教師の質向上は重要なことと言われねばなりません。

センターには午後８時５分過ぎ着、前もって、川端課長が連絡をしておいて下さったので、夕食にも無事ありつけ、ほっと一日を終わる事が出来ました。

10月19日　月曜日　晴れ　　丸　岡　邦　子

朝６時30分、ラジオ体操をする。

〔一時限〕

９：40　小学部英語　５年生（古市和世先生）

1．単語の反復練習のカードを10枚ぐらい見せながら行う。

全員→個人→全員

2．新しい言葉

リズムにして生徒の真ん中から左右に分けて読む。

3．英語で歌の練習

プリントを渡し、テープを流して聞かせ、次に全員で１小節ずつリズムにあわせて読む。一読めるようになったらジェスチャーを入れる。非常に楽しい歌である。

4．動詞カードを先生が見せ、男女一組ずつ立って、どちらが早く読めるか競争させる。

5．テープを最初に聞かせ、一斉に教科書を読む。（全員読み→個人読み→氏名読み）

6．文法

7．ビンゴ式に先生の言う単語を用紙に書く。

１時間の中でこのように授業が展開して行くように、ただ驚くばかりであった。

少し流れが早かったようにも思う。

〔二時限〕
10：40（長野先生）
日本語教授法について
　良い授業を作って行く為の組み立の方法と技術
　指導計画の意義と種類
　指導計画のキーポイントで何を教え、どんな順序、方法、仕方で評価するのか－完全な習得性について
　徐々に、我々が一番求めている核心に入りつつある。
〔三時限〕
13:00　（石橋先生）
Aコース、Bコース合同の授業で、まだ名前と顔がわからず、各自、自己紹介をしてもらいながら、石橋先生の授業に対しての要望など話す。
先生の哲学的な見方で色々勉強になる事が多い。
「進みつつある教師のみ
　　　　　　人を教うる権利あり」（ディスターヴェーク）
　三時限が終わってから、本多先生が特別に「腹話術」の声の出し方（発声法）を指導して下さった。なかなか声がでず、実際行ってみると非常に難しかった。
　夕食後、7：30分より華道をおこなう。材料は、ヨシ竹とユリ・アスパラガス、ヨシ竹とストック。最初と比べ、皆すごく上達して来ている。

10月20日　　火曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　三分一　貴美子
6：30
　日本晴れの素晴らしい朝をむかえ、今朝もラジオ体操から始まった。
9：40　玉川大学第一講　小学部音楽三年（星）長嶋先生
　作詩作曲発表会が終了し、平常の通りとなる旨先生より申し渡しがある。生徒達は自主的に行動し、参観していても気持ちがよい。
1学期は名曲をきく5分間コンサートがあったが、2学期よりは1分間コンサートとして生徒が毎時3人、各自伴奏を他の生徒に頼み前に出て独唱となる。手を上げるのが非常に活発であった。
・おちゃらかほい・じゃんけん電車　歌いながら動作、行動をするので、これはブラジルに持って帰ればとても喜ばれると思った。
10：40　第二講　幼稚部　高橋先生
　小原国芳前学長の全人教育が、幼稚部教育にどのようにとり入れられているか講義がなされた。

はじめに松下村塾、咸宜園の説明があった。

よい子（玉川っ子）とは、

よい頭	知	
きれいな心	徳	三育併進（バランスのある育て方）
つよい体	体	

きれいな心については、詳しく、かんでふくめるような話し方で、二世の方たちも充分に納得したように思えた。

13：00　第三講　日本神話　平山先生

古事記 218ページより 223ページまで

誓約、読み方、遠藤澄江

天の岩戸、　〃　、川辺重信

現代のファッションにまで、説明が及び、先生のお人柄にとてもひかれる。

14：40　第四講　紙塑　小川先生

先週の作品を返して下さりながらアドバイスをしてくださった。

今回は新たな気持ちで作るようにと、台紙を２枚ずつ下さった。又、クリアーブックを各自に下さり、何ともあり難いことであった。何となく色に対しての気遣いが慎重になるように思える。先生によれば、電車に乗っていて男の人のネクタイの色が気になるようにのると、よい方向へむかうとの事。

19:30 茶道

先週練習をしなかった人が先におけいこする。

今日はお手前を先生がつききりで、遠藤さんと、間庭さんが指導をうけた。「始めて通しをしたけど、とてもお上手でした。」と先生の弁。来週からは半分までを何人もでおけいこすることになる。

今日は欠席者がいた。

菅原（外務省での用事）

桜井　午前中休講（病欠）

高田　午後の講義を受けず早退する。（病欠）

10月21日　　水曜日　　晴れ　　　　　　　　　　　　　桜　井　二二子

午前中は身の回りの整理・部屋の掃除、学んだことの整理をしました。

昨夜、体調をくずしたので「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と皆さまに温かいことばをかけていただき、慰められ、励まされました。

10時30分にセンターを出て、12時に学園到着しました。

昼食をとり、13時から文学部校舎 501教室で海外協力研究部との懇談会が開かれました。

「皆さんの国で日本語教育に携わっていて、問題点など、率直な意見を聞かせて下さい。」

と、司会者が話され、会が進められました。

○援助について

・系統だった教材が少ない。

・薄給で奉仕的活動でやっている。

○何故日本語教師として働いているのか

・親子の断絶を防ぐため。

・日本人のよさを伝えていく。

・ブラジル文化で足りないところを日本文化で伝えていきたい。

（私個人として自分自身の学びの為にやっていきたい。）

○教師の使命

・言葉だけでなく文化も伝えていく。

○後継者の問題

・教師になる養成所みたいなものを作って欲しい。

・土台を作ってやる。

・待遇をよくしてやる。

○生徒が成長した時、どんな職業につきたいか、又、日本語を勉強する必要性はあるのか

・留学する為

・進出企業に就職する為

・弁護士

○子供達の好きな遊び

・サッカー

○日本語教師をしていて、その立場から知って（学んで）いてもらいたいこと

・忍耐力

以上のような事が話し合われました。今回のこの懇談会の様子がコスモス祭の時、文学部でビデオ・テレビで上映されます。

若い人達がもっと海外に目を向け、二、三年でもよいですから実際に生活してほしいと思います。（頭だけでなく、肌で）

14時40分から16時10分まで林先生から折紙の指導をいただきました。

・両面色紙を使ってティシュペーパー入れ。

・犬、おっとせい、鯉、鯨、チューリップの花

終了後、希望者で演劇部が練習している場を見せていただきました。

「中南米へ遺跡探しに行く」お祭りのシーン、森の精が探険隊を眠らせるシーンを何回も練習していました。

演技者の表情がとても豊かでした。

18時頃校舎を出て、19時25分頃センターに着き、あたたかい夕食をいただきました。

10月22日　木曜日　曇り　遠藤澄江

風の冷たさが感じられたせいか、ラジオ体操の参加者が少なかったようでした。朝の良い空気の中で深呼吸をすると、体の調子がよくなるので頑張りましょうと云う友の声にはげまされて、体を動かしています。

日本事情の講義で、時事トピックの解説をして下さる歯切れのよい丸山先生のお話は、自民党の総裁候補者、証券（株式）の史上最大の暴落、ペルシャ湾でのアメリカのイランへの攻撃、青函トンネルの試運転が始まったこと、世界各地で民族の自立運動が盛んであること、特にペルシャ湾の国々から日本が輸入している原油は全体の70%ぐらいを占ていることなどで、テレビのニュースを見る時など今までより注意深くしております。そのあと戦後の日本の高度成長率を示す、経済の講義がありました。

日本語教授法の音声と音声教育の授業で、「アクセント・発音」におけるアクセントの規則性、又そのパターンについて、「五十音」の音の分析と発声法の実習・指導があり、プロフェッショナルとして人を指導するときは、自分の発声を意識し、発音・アクセントに気を付ける必要があるとのことで、少々自信喪失の感がありました。ブラジルを出かける時自分にいい聞かせた、“鋭い研修を”という言葉を思い出しています。

体操は榎本教師の引率で森林公園の探訪に出かけました。丘を越える時、階段の多さに少々年齢の差を感じた人もいたようでしたが、園内の広さに驚きました。そして久しぶりに解放感を味わいながら帰って来ました。

勉強会、週一度の講義内容の再確認と、現地で活用できる点の検討のための会を開いています。授業のスケジュールも多く、大変ですけれど現地に帰った時役立つようにと皆頑張っています。

私達、体調に気を付けてスケジュールをこなしていきたいと思っています。

10月23日　金曜日　晴　川辺重信

今日はめずらしく晴れた。テレビでは昨日北海道地方は雪となり、雪玉を作っている場面が映っていた。始めまさかと疑ったが、本当らしい。今年の冬将軍は秋を飛び越して来るのではないかと感じられた。数年離日をしていると、冬と言っても実感が湧かない。ひっきりなしに舞い降りてくる落葉に、のんびりと感傷にふけっている間もないようだ。

1尺の盆栽垂れて柿のたわわ

プレハブの二階より揺ぐ柿うらら

今日は久々のゆっくりした登校。午前11時より玉川学園研修記念に残す写真撮影が行なわれた。各自がそれぞれの思いをこめて撮られていった。その間、相変わらずの水落氏の冗談に大笑いしながら撮影が終わった。

昼食後、今日たった1時間半の勉強が始まった。

方先生の表現教育　いつもの型やぶりな、お面白い教授法が次々と続いた。

「ジャンケン遊び」、「空中に大小を身体で描く」

「軽い布とのたわむれ」 —— 色組事に布と踊る。投げる。身体の部分で受ける。

「音楽幻想」 —— 小さい頃の思い出。題名を付ける。気球に乗って思い出をたどる。

教科書による、読みながら表現して行く法。

詩集 —— リズム狂言調子で対話する。会話につながって大変よいものだと思った。

方先生の授業にはいつも感銘させられる。子供との同調、子供の心理に帰れ。自然にもどれ。素直になれ。でなければおまえたちは教育は出来ないんだぞ。もっと子供のようになれと、頭をおさえ付けられているようで。本当だ私達もそうあらねばと、いつも反省させられる。教師の一番いたい所をつかれているので、真から勉強になっている。

明日は雨とか。何でこんないい天気が雨になるのだろうと不思議に思いながら一日が終る。

10月24日　土曜日　曇りのち雨　　菅 原 智恵子

曇り空の中を朝7時30分、8名の希望者とともにセンターを出て、神奈川県立鶴見養護学校へ行く。

宮崎さんの姪にあたる方がそこで教師をしておられる関係で、私達にこんな機会が与えられ、幸せに思っております。

まず、田所校長が養護学校について説明して下さる。

学級編制：小学部　46名

　　　　　中学部　54名

　　　　　高等部 115名

　　　　　　合計 215名

教師　80名

日課表は9時より午後1時30分まで、

小学部（低学年二年）日常生活の指導、給食指導、リズム運動、音楽、国語、算数、

　　　　五年からは、このほか図工が入る。

中学部　　同じ日課でさらに進んだもの。

高等部　　作業学習が加わる。

坪田教頭先生の説明では、

- 先生が名前を呼んで、「ハイ」と返事が出来るようになるには2年かかった子供もいる。
- ある会社に勤め、針金をひっかける簡単な作業が出来るまでに15年かかった人もいる。
- 保健の先生が2人いる。
- 中学部になれば先生の言葉だけで分かるようになる、又作文も出来るようになる。
- 高等部になれば作業学習が多くなり、いろいろな作品を見せてもらい、その作品の中の鈴と絵葉書（ミルク　パックを細かくちぎり、ミキサーにかけて再生したもので出来た）を頂きました。
- 生徒は男の子が多いが先生は女の先生が多い。男の先生は1／4ほど。
- 柔軟性を養う事が原則なので、外部から人が来ても別に困る事はない。

終りに高等部の生徒達のコーラス発表がありましたが、先生のピアノや指揮に合せ、力いっぱい歌っていました。驚いた事には、あれだけの長い歌をたったの2ヶ月で覚えた（歌の好きな子があつまってと云う事もある）と聞いた事でした。

私達も「ふるさと」を歌ってお返ししましたが、一生懸命聞いてくれる顔々に思わず涙しました。

先生達の子供に対する涙ぐましいまでの忍耐力に、そして愛がとてもすばらしいと思いながら雨の中を帰途に着きました。

10月26日　　月曜日　　曇りのち雨　　　　　　　　　　　　　水原忠一

今朝は寒さを感じながら起床した。玉大では二時限目よりの授業である。でもどんよりと曇った天気で胸がスッキリしない。

研修訪日して早いもので1ヶ月程、何より重病の人もでず、皆様がこれからも身体を大切に研修を続けることを願う。

今日の研修目的　第二時限

イ．日本語教授法について、

A. 人間と言葉　その中で長野先生より是非「野生児の記録」の本を読むようにと勧められた。大へん感動するはずであるとの事。

B. 学校教育（教育課程、カリキュラム）長野先生より

11月4日よりボツボツ　カリキュラムに入るとの事

第三時限　教育原理

石橋先生のいつもの心強い語り合う姿勢はいつも感銘を受けている。気力についての話は生気、英気、勇気、正気。

第四時限

長野先生の受持（クラス）の生徒達との座談会を八班に分かれて行う。

どこでどのような話が各班であったのか？

10月27日　火曜日　曇のち晴　　高　田　照　子

朝夕肌寒さを感じるこの頃である。しかし負けずに満員電車に乗って玉川学園へ。

第一限　中学校（英語授業）見学

しかし本日は英語主任の栗田先生より、生徒が英語を使い慣れる為にどのような方法を使っているかと云う説明をうかがう。

英語での自己紹介。一分間スピーチ等、日本語でも同じ方法が取り入れられるのではなかろうか。

第二限　幼稚園（高橋先生）

幼児期に於いての情操教育が、その子の将来の才能、人格にどれくらい大きな影響を与えるか、と云う事について話をうかがう。

いつものように、創立者国芳先生の生活の側面をたどりながらの説明である。

第三限　古事記（平山先生）

昼食の後、お腹がふくらんでウトウトしたくなる時間である。須佐の男の命が出雲の国でどのように八俣の大蛇を退治したかについての説明。先生の説明と睡魔との戦い。さて、どちらが勝ったでしょうか。

第四限　紙座（小川先生）

7.5cm正方形の色紙を切り込みを入れないで、しかも四角型をくずさないで、どのように折るか。その折り方によって様々な図案が生れる。何種類の折り方があるか、各自で工夫をするようにとの要請。新しい折り方が出来ると、「これは私の特許ヨ」と胸を張る。

夜7時半より茶道。お手前を4名がやる。（前半のみ）回数を重ねるに従って上手になる。いつもながらの和やかな雰囲気の中に終了。

横浜弁が飛びかうのがこの茶道教室の特徴。

10月28日　水曜日　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　長谷川　多喜子

来月に入ると旅行、郷里研修と続き、授業時間は余すところわずかだ。現在迄の研修を振り返ってみると、最初私達の身体状態を考慮され、無理の無い時間帯だったような気がする。ここ1、2週間本格的になり、いざ本題に入った途端終りが見通せるようでは、何となくもの足りない。

研修が決定した時、あらゆるものを吸収しようと心して来た。残りの研修を実のあるものにするよう努力したい。

第二時限　音楽　中島先生

昭和4年（58年前）に出来たと云う建物での音楽の時間。
今日は私達が音楽を習う。玉川ではいつでも簡単な歌を歌ってなごやかな一日が始まるという。

- 1年中のうた
- さあ　みんながあつまった
- 1本指の拍手
- アルプス1万尺

作曲をする時音符がどうだの、理論等は一切要らないとおっしゃる。
生徒自身に演奏、指揮もとらせるが、上手下手でなく、自分でも出来るんだと自信を持たせる為のものだと云う。作曲の場合、最初題名を付けさせ、題に依って感じたものを4行から6行の詩を口で（言葉）云うように歌ってごらんと引き出してあげる。
第四時限　折紙　林先生

もの静かな声で親切丁寧に教えて下さり、良く解る。今日はかぶとの形から出来るものを8種程習う。

①カード立て
②かぶと
③加藤清正の長かぶと
④かぶとに金のくわ形を付けたもの
⑤蟬　2種
⑥蛍
⑦亀……尾3種

夜7時30分より書道　神山先生

今日で3回目なので、かなの練習はこれで終りとの事で、“いし”“すじぐも”の練習をする。Aコースは上達が早いとの事、やろうと云う気構えが伸びる素になるという。
第三限の腹話術　先生の御都合が悪く延期になった。

10月29日　木曜日　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　宮 崎 勝 代

1週間の中で通学のない、一番の気の休まる日で、ゆっくりと1日が始まる。

第一限　日本事情　丸山先生

近頃の出来事として

・土地　地価暴騰

日本人は農業民族なので土地に執着がある。

国鉄の土地を処分するのに地上げ屋が中に入り買いあさったために、坪1億円を突破する。

・株相場乱高下

株の暴落のため景気後退への不安拡大

・沖縄「海邦国体」25日より

戦争では沖縄の人達が一番苦労したが、戦争を知らない人達の、日の丸　君が代反対がなぜあるのか。国を愛し、日本人だとだれにでも言える人にならなければいけない。

・アメリカ　対イラン経済制裁

・京都北山「金閣寺」修復完了

私達の文化研修に予定として入っていないので残念

・米・ソ、外相会議不成功に終る

おなかをかかえて笑っているうちに、あっというまに一限が終る。

第二限　日本語教授法　斎藤先生

・イントネーション

上昇型と下降型

（最後の母音を上昇するか下降するかである）

・プロミネンス

一世代で2回以上変ると困る。

プロミネンス記号△▽▲▼

・間　（文と文の間の時間が間である）

特長としてあいづちの重なりがある

文末を速くする

音が小さくなる

・ローマ字　ヘボン式　訓令式

日本は 500年前よりローマ字を使っていた。

・現代仮名遣い

・おくりがな
　　送りがなの根本は、まちまちな標記を持っているので必要
今まで迷っていた事にだいぶ自信がついた。

19：30　第1講義室で中間研修反省会がある。
・玉川大学への希望と、良かった事
・センター内の講義への希望と良かった事
・新宿日本語学校への希望と良かった事
・毎日の通学での　〃　〃
・センターでの生活について
・センターからの希望
今までの良かった事、悪かった事、これから希望する事
みなさん、どしどし意見を出す。

10月30日　金曜日　曇　五木田　洋　子
朝　6時30分、ラジオ体操。肌寒く、すがすがしい。
さあ、今日も一日頑張ろう。
8時すこし前センター出発。この頃は、仲の良い仲間同志出かける。
玉川大学
一時限目　小学一年生、すみれ組　国語
漢字の授業
ていねいに書くこと
部首のかんたんな説明
今日の漢字は木の家族
子供達から、まずどんな漢字を知っているか聞き出す。
これはすばらしいことだと思うが、日本の子供達だからこそできる授業方法だ。
色々な漢字をつぎつぎと発表した。
木へんが付くのはだいたい植物に関係があり、もうひとつ植物に関係のある字に付く部首は……
という事で、しばらく子供達は考えていたが、ある子が「くさかんむり」を思い出して「楽しい」という字の上につけて何と読むか……
何でも先生は先に自分で教えてしまわず、まず子供に考えさせる方法を取る。まったくすばらしい

事だと思う。

二時限目　休み

三時限目　方先生　表現教育

芸術学部の5階まで一つ一つ説明しながら登る。

この先生の授業は、いつも「こんどは何かな」という期待と好奇心で心はずむ。

静かな音楽で各自体を動かしほぐす。

今日は「ごっこ遊び」。なわをもったつもりでなわとびをする。風船になったつもりで、ぺっちゃんこの風船がだんだん大きくふくらみ、口をはずしたとたん、ぴゅっと飛んで行く風船を演じる。

一枚の絵をじっと見て、その中からお話しを作る、一枚の紙芝居。

協力しながら4、5人で作る機械。ひとりずつ部品になったつもりで、スムーズな、無理のない動作を入れながら一つの機械を作り上げる。

電話ごっこ、それぞれの国へ電話。

状況を設定し電話をする。その人になりきって話を進める。

ごっこ、つもり遊びは、実物を良く観察し、又その人物、物になりきってその世界を作る。

方先生のように、生徒に楽しみと期待を持たせる教師になりたいと思った。

四時限目

桔梗美奈子先生から、カードを使った遊びや、カードの作り方、指あそび、ペープサート、絵まきものなど、実際にすぐ使える教材作りや、遊びを教わった。

夜7時半より反省会

野口さん　宮崎さんが書記係。

8時すぎるとつかれて眠くなるので、早く終らせようと頑張る。

10月31日　　土曜日　　小雨　　　　　　　　　　　　　野　口　民　恵

楽しみにしていた鎌倉見学の日です。

でも朝、目がさめると外はしとしとと雨!!　ああ…………

8時頃榎本先生から「どうしますか。」と御相談があり、全員一致で出かける事に決まり、9時40分小雨の中を元気よく出発。

大船駅で乗り換え北鎌倉駅にて下車。

霧雨の中を円覚寺へと向う。

苔むした石段を登ると、杉の木の匂いが鼻をつき、青葉からしたたる滴も何となくロマンチックで、しっとりと落ちついた美しさに心を引かれました。

総門から山門を抜け仏殿に到るまでも、濃い緑の中にも、紅葉を初めた木々が目に美しい。

つづいて、東慶寺、建長寺とそれぞれ特徴のある美を秘めて、落ちついたたたずまいの中に、どっしりと息づいているようでした。

「鉢の木」での昼食、精進料理は素晴らしい御馳走でした。

鶴ケ岡八幡宮は赤と黒塗りの社殿が印象的でした。最後の大仏像は、後の山々の緑によく調和がとれ、何とも言えない美しさで、特にあのおだやかな、それでいてきびしそうな顔は美事でした。小雨の中を夢中で何枚も写真を写しました。

古都、何といいことばでしょう。改めて日本の美に浸りながら帰途につきました。

11月2日　月曜日　雨　　川 崎 晴 美

明日は文化の日で休日、昨日から玉川学園では第23回コスモス祭が開かれている。他の大学では大学祭、あるいは文化祭と称されているものですが、玉川では学生達を秋に咲くコスモスの如く美しく咲かせたい、それに秩序と調和である世界（COSMOS）を追求してほしいという小原先生の理念とつながった「コスモス祭」だそうだ。

本邦研修生として私達も、玉川の学生達が文化のためにどんな働きをしているのか、見学、見物かたがた行った。

コスモスの咲く青空の日に行われる行事だと思いたかったが、今日はあいにく雨の日だった。

傘をさして、両側にCOSMOS FAIR と書いた白い旗で飾られた、ぬれた階段を上ったその先の広場にはやっぱりお祭りの雰囲気が感じられた。雨の邪魔にも関わらず、学生達は出店先で売り物の宣伝を一生懸命にしていた。水飴、りんご飴、ホットコーヒー、お汁粉、焼きそば、などの食べ物や、自分達の手芸品などだった。

私達は先ず、展示会の文学部第二校舎に入った。研究部の生徒達が長い月日を懸けて研鑽し錬磨した成果の発表展示が、各部に分けられて行われていた。教育部の大学生達の詳しい説明を聞きながら見たのは、児童文学研究部、児童文化研究部、僻地教育部、地理研究部などの発表・展示だった。家々を訪ねてアンケートしたり、その統計を取ったり、又は鹿児島の未開地である小さな島で何日か過ごし、そこの風土、人口、社会問題などを調べたりする若い学生達のまじめさには感心させられた。

気が付くともう1時半頃だったので、出店に行って、何か体の暖まるものと思って食べたお雑煮はすごく美味しかった。

プログラムを見ると、1時から神住純氏の講演が礼拝堂で行われていたが、もう間に合わなかった

ので演劇部へ行った。途中、空手道部の瓦割りのデモンストレーションを見かけたが、雨でぬれていた瓦は割りにくそうだった。しかし、皆精一杯やっていたようだった。

玉川演劇部の「ルナテックの幻想」は始めから終りまで見られた。若者のグループはプロではなかろうかと思うほど上手だった。この劇は栃木県内17校6000人の中学生に見せたもので、コスモス祭で再公演とのことで、さすがは経験の積もった活動だった。

その後に同じ劇場で太鼓のデモンストレーションがあった。20歳そこそこの若い男女がはっぴを着、頭にははちまきを締め、日本の伝統的なこの太鼓を叩いているのを聞いた私は何か、胸の奥をゆすぶられ、熱く血が湧くのを感じた。あの鋭い響きに、ブラジル生まれの私があんなに感動させられたのは今日の最高の一時だったと思った。

センターでは7時半からお花の時間だったので、大体育館で歌っていた小林明子さんのコンサートを半時間くらい聞き、小雨の寒さを耐えながら急ぎ足で帰った。

寒い晩のお花の2時間だったが、竹内先生の優しい温かい指導によって、生けたもみじの枝、白い小菊と青紫のアイリスも和やかな形になったようだ。

11月4日　水曜日　雨　　佐藤　隆

休日明けの玉大研修は、午後1時からの長野教授による日語教授法で始まる。一般学生は、コスモス祭の代休で、キャンパスは閑散としている。秋雨で尚もの寂しい。

導入部分として、日本文化の見直し、冠婚葬祭に目を向けよとの話があり、日語教授法は現場に則したカリキュラムの確立を説く。現場から生まれ出る悩みをかかえたカリキュラムでなくてはならない、決して外国からの借り物であってはならないと繰り返す。参考資料数枚を受け取って、宿題となる。ちなみに郷里研修のため講義はしばらくなし。時間オーバー。

次いで、林先生の折紙講座を401号室で受ける。今日の折紙は、“折り方の記号”の勉強をしながら、「龍」を折り上げ、後、正方基本形の色々な折り方を教わる。

夜　7時30分より神山先生の習字“赤とんぼ”をしずかに全員ががんばる。一字一字に筆づかいがあり、作品に個性が表われておもしろい。

11月5日　木曜日　秋晴　　大城和子

今日は久しぶりの青空、木曜日はセンター内の授業でいつもと異なってのんびりする。

留守をあずかっている子供達へ小包と思い、夕べのうちに用意した小包をもって9時に郵便局へ行く。普段より人が多いので、どうしたのかと聞けば、年賀ハガキの売り出し日だとのことで人が並んでいた。

朝の授業、丸山先生の日本事情・株の暴落から半導体、L.S.V.T.R.等々いろいろと外国語が使われている。日本と違ってとなりの中国では決して外国文字を使わず、可口可楽→コカコーラ、労力→ローレックスと云う。授業は楽しくて、笑いがあって話が脱線してしまい、「何の話だか、わけがわからなくなっちゃった。」が先生の口ぐせになっています。

円が上がるとコストを下げる。企業が生きのびるには産業の空洞化・頭脳流出と、思わぬ方向へ進みつつある。これより先どうなるでしょう。時間まで講義は楽しく、興味あり又、考えさせられた。

昼食を終えて休む時間50分、午後から言語学。皆さんの大好きな授業（その反対？）先週の復習のつもりでと丸山さん・丸岡さん・川崎さん・宮崎さん・横畠さん・福島さん・大城さん・高野さん・菅原さん・佐藤さん・水落さん・三分一さん　指名されて胸がドキドキするのは私だけでしょうか。

常用漢字いくつありますか、1990字～2000字、問・なぜつくられたか、答　一般社会生活のめやすのために。

食後の授業は眠りがちなのに、斎藤先生の時は緊張して向う。音声学の歌始め、低けりゃ次は高い。始め高けりゃ次は低い、高いのは一つだけ。

語彙論LEXICON 単語。単語からでき上ったのが、文・文章、意味論SEMANTICA 言語学を探究しつつあり、成人向き教授法に取り入れたい。

基礎英語は百語位なのに対し、基礎日本語の方は千百語もあり、かつ派生形式が非常に複雑をきわめ、さらに基本日本語を定め新聞を読むためには三千から三千五百語をも必要である、となると、現地の子弟に教えることは、気の遠くなることです。

その後丸山先生の京都・奈良の地理的な説明があり、尚かつ詳しく川端課長の話があり、それがすんで江崎さんから日本文化研修旅行現地研修の経費が手わたされた。各々の気持は待ちに待ったふる里へと一挙に飛び、夕食のはしをもつ手もいつになく浮き浮きとして見えた。そんな私の気持ちの方が誰よりも早く沖縄へと飛び、父母の顔が走馬燈のごとく浮んだのでした。

11月6日　　金曜日　　晴　　　　　　　　　　　　　　　　　　　横畠愛子

今朝はいつもより肌寒く10度1分だった。

早朝6時30分からの、ラジオ体操も5名の出席で行う。

玉川学園の授業も今日は午後からで、センター内では月曜から関西旅行に出発のため、先生方は早々と旅支度を整えている。

午後1時

表現教育　　方先生　　芸3（501）

教室に入ると、児童福祉関係を目指す生徒さんが「ジャックと豆の木」の劇の練習中だった。

間もなく終わり私達の授業に入ったが、その劇の説明から今日の授業が始まった。

玉川での劇は、舞台装置も何もなく、観客の子供達が頭の中で想像し、その劇の中へ参加するという。

この劇の方法はイギリスから生まれ、「児童参加劇」というそうです。

○それには、

1）子供を通して、一つの事件を解決するという事（生きていて良かったとか、悪者をやっつけてほっとした、という子供の反応を得られる事が大切。）

2）いいお客さんの役をしてほしいと願う事

「劇遊び」によって、子供の文化を大切にする事

◎生徒に言葉を教える大切さは、この表現教育を通して自分を研ぎ澄ませてほしいと教えられた。

その後

・体をほぐす

・「あいうえお」の発声練習

・イメージをふくらませて短いお話を作る練習（4人～5人で）

題は先生より出される「うめぼし」

午後2時40分　幼稚部へ行く

　　　　本多先生

・ダンスの復習

　親子のダンス（2人組）

　すてきな友達（　〃　）

・指人形を作る

　（材料）くつ下

　　　　布　フェルト

　　　　画用紙　少々

本多先生の説明の通り布を切ったりして、久し振りの針仕事にA・Bコースとも一生懸命、年輩組はうまく糸を通すのももどかしく、Bコースの助けをうけて……

（私もその1人だけど）

男の先生も負けてはならぬと一生懸命で、私達よりも手早い……。でも出来あがらないので宿題となる。

楽しみの旅行を目前に、次々と宿題ばかり……しかし、皆の顔はもう関西旅行の喜びにあふれていた。

11月7日　土曜日　曇　　　　　　　　　　　　　　　　丸 山　みどり

今日は休みなのでほとんどの人達が外出。

何人かの人達は部屋の掃除とか関西旅行の用意。又私達が旅行中、海外へ移住される人達が部屋を使うため、荷物の整理をする。

わずか1ケ月そこそこでよくまあこれほどに、と同室の人と笑いながら整理。見る物ごとに子供達に、と買ってしまった結果である。

帰りの事が気になりセンターの方に聞くところ、32キログラムの荷物を2ケぐらいとの事。こりゃいささか買い過ぎたかと苦笑い。

午後何人かの人達は、大学生に依る「劇あそびフェスティバル」を鑑賞に出かける。その人達の話では「すごく楽しかった」とのこと。

私は見ていないので感想の書きようがない。

合わせて今日は授業もなかったので、日誌の書きようがない。

授業があった日は「まとめようがない」と言い、授業のない日は「書く事がない」と言う。（これは私だけの話）

全く口というものは便利である。

11月9日　月曜日　曇　　　　　　　　　　　　　　福島　知恵子　ローサ

本日より小田原をめぐって、京都、奈良見学旅行に行く。

根岸発（9：47）JR線→大船（のりかえ）→小田原（箱根鉄道）→大雄山（バス）→大雄山最乗寺12：10到着、昼食（弁当）

13：00　部屋割、荷物整理

14：00　法話（当山についての説明）

仏教の各宗派についての簡単な説明と、当山での規則についての話のあと、座禅についての説明をして頂く。

15：00　座禅（禅堂にて）、作法、坐り方の指導をして頂きながら一つ一つ行う。従って実際に座禅を組んだのは20分ばかり。それでも1人1人形ばかりに肩に一発ずつ打っていただく。

16：00　入浴

17：00　夕食

20：00　就寝（21：00消灯）５つの部屋に分かれての雑魚寝。

夕食後、消灯までの間、にぎやかな笑い声、歌声がひびく。

11月10日　火曜日　晴　　高野知恵子

朝霧の少し残る大雄山最乗寺を8時出発し、40分小田原を出て、9時30分「こだま」415号車に乗り込む。「こだま」415号車は一路京都にまい進。途中右手に美しい富士山を眺め、皆写真のシャッターをパチパチ。

みかんの里静岡を走り、11時45分名古屋にて弁当をつみこみ、車内でおいしく食べ12時20分京都到着。12時45分奈良観光バスで観光のはじまり。京都タワーを見上げつつガイドの説明、曰く京都タワーの高さは当時（昭和39年）の人口131万人にちなみその高さをもち、現人口は150万人余とのこと。東山通りを走り、清水寺、千一体の観音様をしっかり目におさめバスにもどる。バスは東本願寺を右横に眺め三分直路、左手に西本願寺、堀川通り、五条通りと直進。

あまり上手でないガイド嬢の案内を聞きつつ銀閣寺、庭園の美しさと造形のこまやかさにため息をつきながらも、銀閣寺をどこからどう眺めても美しいとは感じることなく、歴史の重みのみを考え、「ローマは一日にして成らず」の言葉がうかぶ。又、京都の三大祭り、祇園、葵、時代のそれぞれの祭りのにぎわいを想像し、手工業である清水焼、西陣織、友禅染め……この友禅染めが京都の画工、宮崎友禅の創始からなり、彼の失恋物語を聞き、人間なにが幸いするものかわからないと思いつつ今日の最後の見物場所、平安神宮へ。天武天皇が京都に入ったことを記念しこの神社を建造したとのこと、さすが名前のように平安京、明るく、何か華かさがあり広々とした庭園にて走りたくなったものだ。

京都での夜は日本情緒豊かな京の宿、松菊園の日本間に落ち着き足をのばし、夕食前に二人の舞妓さんと記念写真を写し、楽しい夕食をすませ8時部屋にて休息。

楽しい一日を感謝しつつ10時就寝。

11月11日　水曜日　快晴　　間庭文子

朝7時まで一度も目ざめることなくぐっすり眠る。

午前8時にはすっかり朝食が整って、同室の方達と揃って一階の大食堂で赤だしの味噌汁、味付けのり、半熟卵、ほうれん草のおひたし、がんもどきとひじきの煮しめ、塩鮭という大変豪華な朝食を美味しく頂く。

午前9時ホテルを出発し、季節はずれの暑さの中、バスは午前9時半に大原の里へ向けて出発する。

午前10時にはつけものの故郷でもある大原の三千院着。

20年前の同じ晩秋にあおぎ見た、三千院の山門を再度仰ぐ幸せをしみじみとかみしめたのでした。

生まれてはじめての写経、といってもほんのさわりでしたがさせて頂く。合掌し心を落ち着けてはじめる。

諸悪莫作、諸善奉行（すべての悪しきことをなさず善いことを行い）

自浄莫意、是諸佛教（みずからの心を浄めること、これが諸仏の教えである）

（法句経）

と書きすすむ。一字一字に心こめて……。そのあとに願いごとを書き込む。欲ばって二つも三つも書いては御利益がないとのこと。多くの方が家内安全、とか無病息災とか、心願成就等であったようだ。合掌。毎日の生活の中の豊かな心の安らぎを得るために。

緑の苔が美しい庭を眺め、その輝くばかりの紅葉に感嘆の声を上げた。

正午には東映太秦映画村に着き、午後12時45分に昼食となる。

映画を録画中でした。ライトを浴びると急きょその役になり切ってしまう役者根性というものに、ひたすら敬服しました。

午後2時半、二条城着。桃山文化の粋の集約であるこのお城を拝見するたびに、古人の高度な芸術を目のあたりにして、人間って本当にいつもいつも進歩しつづけているのだろうかと自問するのです。

午後3時半、京の都をあとにして奈良へと向かいます。

午後5時半、木津川を渡り、日本歴史発祥の地、奈良斑鳩の里へと奈良交通のバスは進み、午後6時美しい“わかくさホテル”着。

午後7時より夕食、食後、再度楽しい宴となり、私は野球拳を教えて頂き、川端課長に勝ち、佐藤さんには負けてしまいました。何とも珍妙なゲームですね。昨晩の寝不足を解消すべく午後10時早々に就寝。

11月12日　木曜日　晴のち曇り　　丸岡邦子

朝8：40分ホテルを出発し、奈良公園を通りしばし鹿と戯れる。

記念写真を写し、それから東大寺大仏殿へと歩く。

華厳宗大本山東大寺は、奈良時代に聖武天皇の発願により総国分寺として創建された。大仏殿はその中心をなす金堂で大仏さまはその御本尊である。

正しくはビルシャナ仏（太陽）といって、智恵と慈悲の光明をあまねく照らし宇宙のあらゆるものを救う仏であり、世界最大の金銅仏である。

過去二度の兵火で現在の大仏殿は江戸時代に再建されたものである。しかし木造建築物としては、世界最大である。

東大寺を出て徒歩で春日大社へと向かう。

二月堂、三月堂を見る。春日大社は中国文化の影響を受けて朱塗りであり、わが国最大の天平建築である。七五三のお宮参りの人々が多かった。

次に唐招提寺へと向かう。

開山唐僧鑑真和上は大唐国揚州大明寺の高僧で、わが聖武天皇の寵招に応え受戒の師として来朝することになったが、754年（天平勝宝6年）東大寺に到着するまで12年間前後5回に及ぶ難航海に失敗

したにも拘らず、初志を曲げずに奈良の都に着いた時は両眼を失明していたとの事。
しかしそれにも屈せず我国の多くの高僧達に授戒した。
すでに仏教国家の形態を整えていたわが国が画竜点睛の実を挙げたのは、まさに大和上の功績である。思わず墓前で手をあわせる。
唐招提寺を後にして慈光院へと向かう。
京都とはちがった静かなたたずまいを見せている慈光院の門を入って皆、気が付いたであろうか。茶道では客を招く時、必ず庭の踏み石に打ち水をしておく風習がある。
さすが茶人石州の風格と心くばりが感じられる。
書院に座して一服の茶をすすると心からくつろぎを感じる。
別間で昼食の精進料理を頂く。非常に美味しかった。
午後からバスに乗り法隆寺へ行くが、曇り空になり雨が降らなければ良いがと少々心配する。
法隆寺は金堂、五重塔を中心とする西院と夢殿、伝法堂を中心とする東院からなっている。文化史上法隆寺のもつ重要性は、飛鳥時代美術の粋を数多く蔵している点にあるが、それだけでなく歴史を物語る多くの文化財を残している。法隆寺は日本の歴史と共に歩んで来た美術の一大宝庫である。建築だけでも五十余件に及ぶ。
国宝、重要文化財を擁している中でも、五重塔は世界的に有名である。最後に薬師寺を見学する。
薬師寺は天武天皇によって発願され、持統天皇十一年に本尊開眼、更に文武天皇の御代に至り堂宇の完成を見たが、程なく平城遷都に伴ない現在地に移建された。
薬師如来を中央に向かって右が日光菩薩、左が月光菩薩　あわせて薬師三尊といい私達の心身の病気を救ってくださる。
医薬兼備の仏であるとの事。
今日、一日で多くの寺巡りをしたので、さすがグッタリ疲れが出てきた。
しかし、夕暮れの斑鳩の里はやはり日本人の心のふる里そのものである。日本の歴史の深さ、重さを充分かみしめ、再度日本の良さを心にきざみ込み研修の糧としたい。
ホテルへ帰り風呂に入り、研修最後の夕食をとる。とても楽しく和やかな雰囲気であり、名残惜しい気持ちで終了した。
明日からは出身地研修で、再度心ひきしまる思いである。
楽しい味のある研修でした。

11月24日　　火曜日　　晴れ　　　　　　　　　　　　　　　　　桜　井　二二子

小田原、京都、奈良の旅行、つづいて郷里研修も終わり、今日から研修後半に入りました。
朝8時にセンターを出て、混み合う電車にゆられながら玉川大学に着きました。

一限中学部、英語授業参観です。事務所のところで学生さんからプリントをいただき、401〜407教室の授業のどれを参観してもよいですとの指示を受けて、私は 404、2年A_1コースに入りました。

生徒はノートを

教科書の文を写す	左ページの文を訳す
新しく出てきた単語を書く	大切な用法をかく

このように使っていました。

次に 403、2年A_2コースに入りました。

・本文のよみ（全員）

・本文を色別（品詞）

・用紙（小）に短文をかかせる。（和→英）

①ひとりごとをいいました。

②小さな動物たちには気をつけなさい。

③その小さな動物たちというのは　ときには大きな動物たちより危険です。

④ジャングルから外へ出るために、小さな川を見つけなさい。

⑤いくつかオレンジを買うために私はその店にいきました。

・単語カードで発音の練習をする。（何回も）

二限

短大 402教室で高橋先生の授業です。

昔は園児が多かったが、今は年間 140万の出産児で、少ない子供が学校を選ぶ時代となった。

園では

①長時間保育

②給食

③バスで送迎

④月謝をさげる

⑤その他（レッスン、学習）

このようなことをあげ、競争して子供を集め、正しい経営はされていない。

これに対し、先生は一つ一つの誤りをわかりやすく話して下さいました。

三限

古事記

P227、四、大国主の命

・兎と鰐（因幡の白兎）

・蟹・貝・比売と蛤貝比売

・根の堅州国

四限

紙座

皆さんそれぞれに工夫されて、よいものがたくさんできました。

四限終了後長野先生からお話がありました。

・橋本先生からお便りをいただきました。

・短歌の時間割の知らせと「近代秀歌」の本と、方先生の授業で用いる本を頂きました。

・身分証明書をいただきました。

私達のことを思い、いろいろと心を配って下さる諸先生方に心から感謝致します。

11月25日　水曜日　晴　　三分一　貴美子

昨日にひき続き玉川大学への通学となる。

一時限目がないのでセンターを9時頃それぞれに出た。

二時限目　近代短歌　金平先生

初の講義で皆慎重に聞く。先生のお人柄とでもいうのでしょうか、親しみやすい話し方で皆の心がほぐれていくのが感じられる。Bコースにも気くばりをして下さる。

・短歌概論

和歌……（長歌、短歌）

和歌とは……その時その時の感動を五、七の定型にまとめてあらわす詩（うた）である。

短歌の始まりの歌　古事記　須佐男神

八雲たつ出雲八重垣妻籠に

八重垣つくるその八重垣を

・学習資料としてのプリントを配布される。

昨年、一昨年の研修生の作品を注釈をつけ詠んで下さった。

どの作品も立派なもので私にも出来るのかなあと感じてしまう。

「こまごまと様子綴りし娘の便り主婦をつとめる姿いじらし」この歌に次女の姿がふっとうかんできて、目頭が熱くなってきた。